



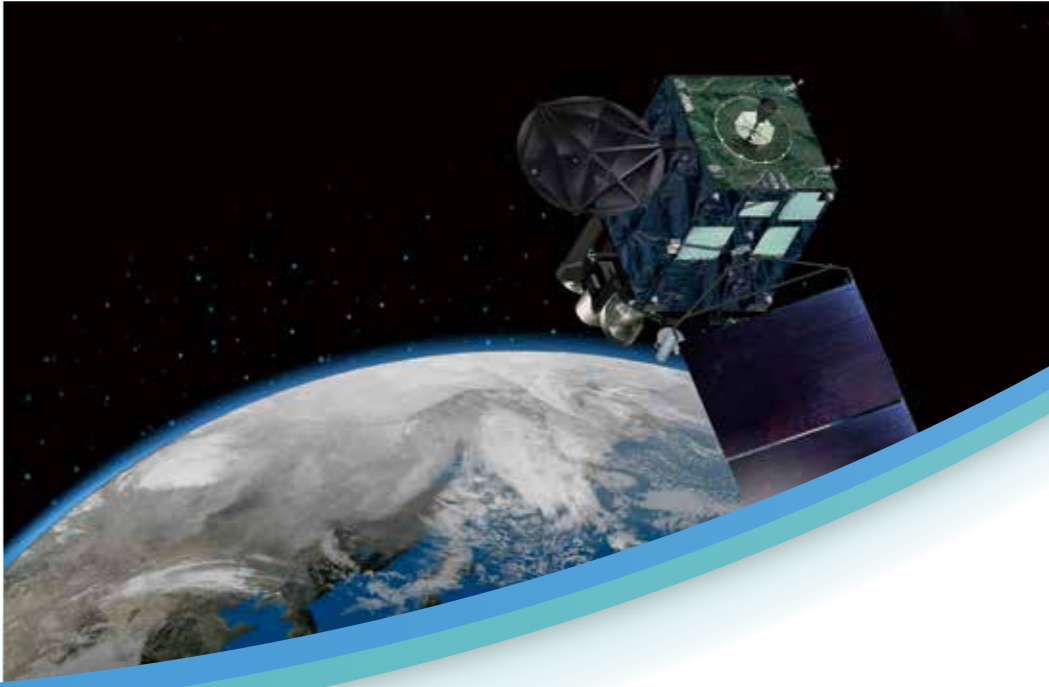
気象庁マスコットキャラクター **はれるん**

気象庁マスコットキャラクターは、「太陽」、「雲」、「雨」などをモチーフとしており、「地球」をイメージすることのできるキャラクターです。また、手には、災害のない、調和のとれた地球への祈りを奏でる緑のタクトが握られています。

はれるん専用ページへ! **はれるん誕生 20周年**



はれるん



生活を、命を、
最前線で守り抜く

国土交通省  **気象庁** | 採用についての問い合わせ先

- | | | | |
|---------------------|----------------------------|---------------------|----------------------|
| 気象庁 総務部 人事課 任用係 | 03-6758-3900(内線 2306・6754) | 大阪管区気象台 総務部 総務課 人事係 | 06-6949-6300(ダイヤルイン) |
| 札幌管区気象台 総務部 総務課 人事係 | 011-611-6127(内線319) | 福岡管区気象台 総務部 総務課 人事係 | 092-725-3601(ダイヤルイン) |
| 仙台管区気象台 総務部 総務課 人事係 | 022-297-8115(ダイヤルイン) | 沖縄気象台 総務課 人事係 | 098-833-4013(ダイヤルイン) |
| 東京管区気象台 総務部 総務課 人事係 | 042-497-7183 | | |

 <https://www.jma.go.jp/jma/index.html>



リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

 **気象庁**
職員募集案内
JAPAN METEOROLOGICAL AGENCY RECRUIT GUIDE

自然と社会をつなぐ、 気象の専門家

みなさんは「気象庁」についてどのようなイメージをお持ちですか？

「天気予報を出しているところ」でしょうか。

それとも「気象や地震、火山の観測をしているところ」でしょうか。

気象庁は1875年に当時の東京気象台が気象業務を開始してからまもなく150年を迎えようとしています。

その間、絶え間なく気象や地震、火山といった自然現象の観測や、

天気予報や気象警報等の発表といった業務を引き継いできました。

それに加え、近年顕著な気象現象による大規模災害の頻発により防災・減災への対策がより一層求められているため、

気象防災の関係者と一体となって、地域の気象防災に貢献する取組も進めています。

また、常に最新の科学技術を駆使し、気象情報作成のための技術基盤を確立・向上させ、

社会のニーズに応じた気象情報の改善や高度化も進めているほか、生産性の向上に向けて、

気象データが様々な産業分野において利活用できるように産学官連携のもとに取り組んでいます。

このパンフレットでは、現在の気象庁の取組のほか、

今日も全国各地で「生活を、命を、最前線で守り抜く」ために

様々な分野の最前線で活躍している職員や若手職員の生の声をご紹介します。

これからの時代を担う皆さんも、我々と一緒に今後の気象業務の発展に寄与していきませんか。



目次 CONTENTS

- 4 組織の紹介
- 5 部局の紹介
- 6 気象データの流れ
- 8 データの収集
- 9 データの解析
- 10 情報の提供(防災)
- 11 情報の提供(生活・環境)

気象庁の
行うこと

- 12 対談「入社1年目に聞く仕事とやりがい」

職場
環境

- 14 本庁
総合職(院卒) 数理科学・物理・地球科学

- 15 札幌管区気象台
一般職(大卒) 物理

- 16 本庁
一般職(大卒) 物理

- 17 佐賀地方気象台
一般職(大卒) 化学

- 18 広島地方気象台
一般職(大卒) 土木

- 19 本庁 **海水の化学分析**
一般職(大卒) 化学

- 20 本庁 **システムの整備・運用**
II種 電気・電子・情報

- 21 仙台管区気象台
一般職(大卒) 物理

- 22 福岡管区気象台
II種(物理)

- 24 中部航空地方気象台 **南極・南鳥島
経験有!**
一般職(大卒) 物理

職員紹介

- 25 気象研究所 **研究職**
II種(物理)

- 26 本庁 **経験者採用**
経験者採用 技術

- 27 本庁 **国際業務**
I種 物理

- 28 本庁 **管理職**
I種 電気・電子

- 30 沖縄気象台
一般職(大卒) 行政

- 31 本庁
II種 行政

- 32 高知地方気象台 **高卒区分採用**
一般職(高卒) 技術

- 33 対談「ベテラン職員が語る気象庁で働く魅力」

職場
環境

- 36 Q&A

- 38 アンケート

- 40 気象庁の働く環境

- 42 募集要項

福利
厚生
募集要項

ORGANIZATION 気象庁の組織

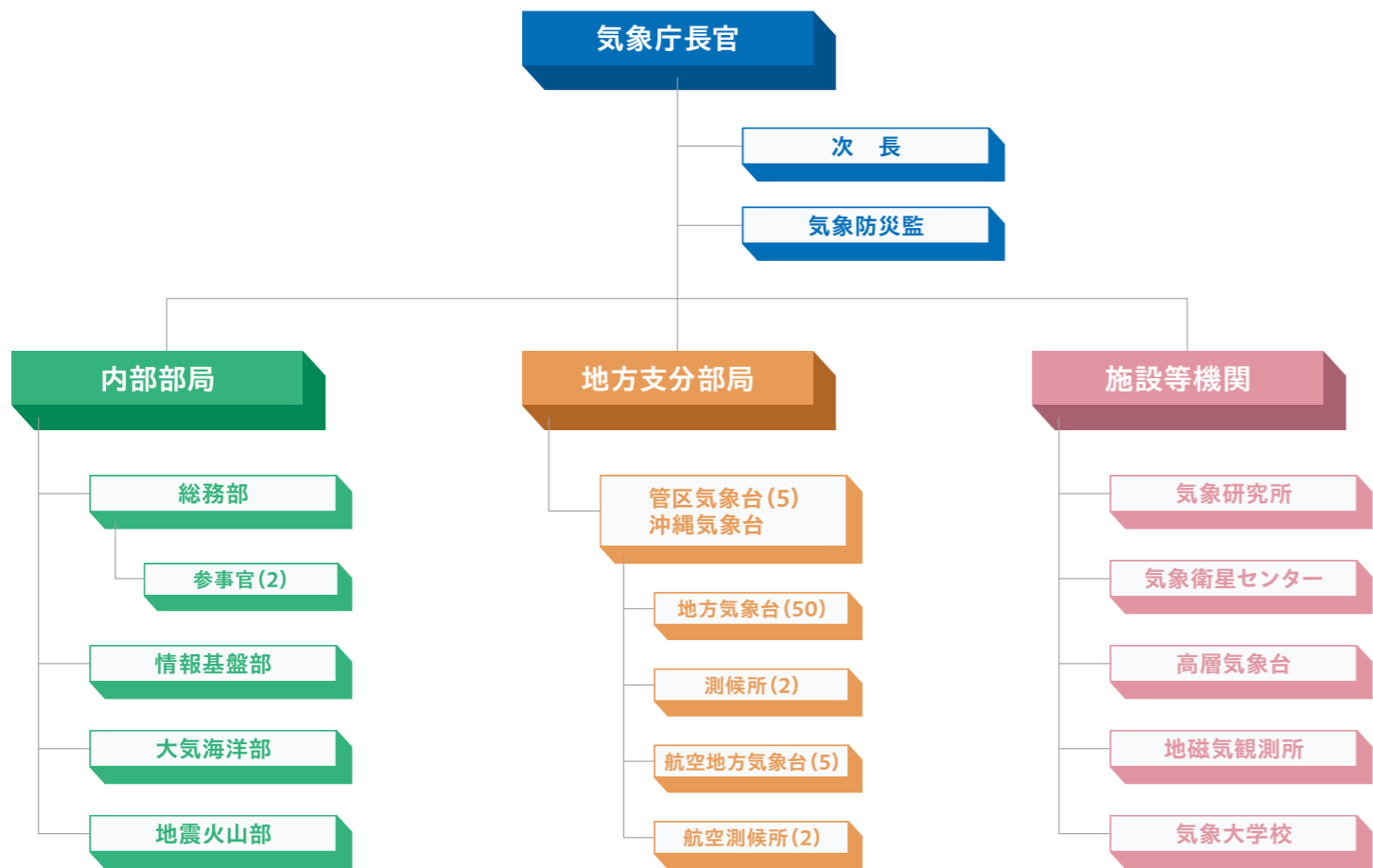
気象庁は、国土交通省の外局として日本における気象業務を担当する責任を課されています。

その中枢機関として、東京(虎ノ門)に気象庁本庁があり、地方支分部局として、

札幌・仙台・東京・大阪・福岡の管区気象台及び沖縄気象台があり、その下部組織として、

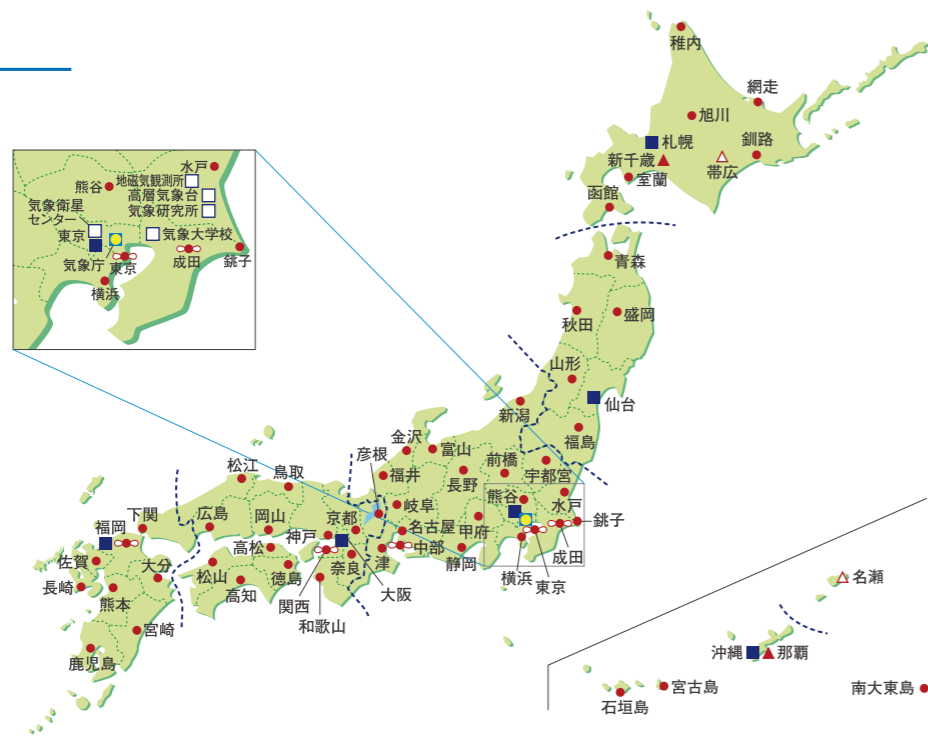
地方気象台・航空地方気象台・測候所及び航空測候所などがあります。

また、施設等機関として、気象研究所・気象衛星センター・高層気象台・地磁気観測所・気象大学校があります。



令和6年4月1日現在

気象庁の施設



内部部局の仕事



総務部

総務部では主に、総務、人事、会計、企画調整などの業務を行います。総務という言葉のイメージ通り、事務系職員が多くを占めており、秘書や国会関係業務、広報や法令審査、人事管理、会計など、気象庁の業務を円滑に行う上で重要な土台を支えています。また、企画調整の業務については、気象に関する専門的知識を必要とすることから、多くの技術系職員が携わっています。

大気海洋部

大気海洋部は、気象・海洋・地球環境に関する様々な現象を観測・予測し、防災や交通安全、気候変動適応、産業の興隆に役立つ情報を提供しています。情報の質を高めるためには、観測・予測技術の向上に加え、社会のニーズを踏まえた情報提供が重要です。大気海洋部では、最新の科学技術を取り入れ、社会との対話を行いながら、より良い情報を提供できるように常に改善に取り組んでいます。

情報基盤部

情報基盤部は、気象衛星ひまわり、スーパーコンピュータ、各種気象情報を配信するための情報通信システムなど、気象庁の基幹システムを整備・運用しています。これにより、数値予報モデルの技術開発から、気象情報・データの提供と民間事業者等での利活用促進まで、最新技術を導入しながら日々精力的に業務を行っています。

地震火山部

地震火山部は、地震・火山大国である日本において地震・津波や火山噴火による被害を防止・軽減するため、24時間体制でリアルタイムデータを監視し、最新技術を駆使して防災情報を発信しています。また、平時から周知広報や訓練に取り組むとともに、システム構築や技術改善にも力を注いでいます。

地方支分部局の仕事

管区・沖縄気象台

管区気象台・沖縄気象台は、全国を6ブロックに分けて設置されており、各地方気象台や測候所を統括しています。また、地方気象台の予報・警報を支援し、隣接府県間の予報を調整しています。これにより、地震や火山噴火などの広域的な現象に対する効率的な情報提供が可能となっています。



地方気象台・測候所

地方気象台は、各道府県に置かれ、地域に密着した気象情報の観測・予報・防災業務を担っています。特に最近では、管内の市町村と顔の見える関係を築き、災害発生時にはJETT(気象庁防災対応支援チーム)の派遣や首長へのホットラインなどにより、地域に密着した防災支援に力を入れています。



航空地方気象台・航空測候所

航空機の安全な運航を支援するため、国内の主要な空港に航空地方気象台や航空測候所を設置しています。航空機の離着陸には、風や視程、上空の乱気流などの気象情報が欠かせません。航空地方気象台や航空測候所では、離着陸や飛行計画に必要な気象情報を提供しています。



施設等機関の仕事

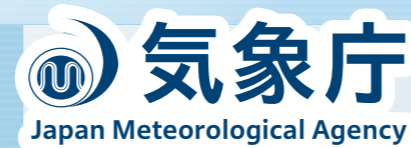
気象業務を支える機関として、施設等機関が設置されています。

技術の改善・高度化のための研究・開発を担う気象研究所、気象衛星観測及び静止気象衛星「ひまわり」の運用等を行う気象衛星センター、高層気象観測・調査研究を行う高層気象台、地磁気の状態及びその変化の監視・解析を行う地磁気観測所、気象業務に関する教育・研修を担う気象大学校があります。



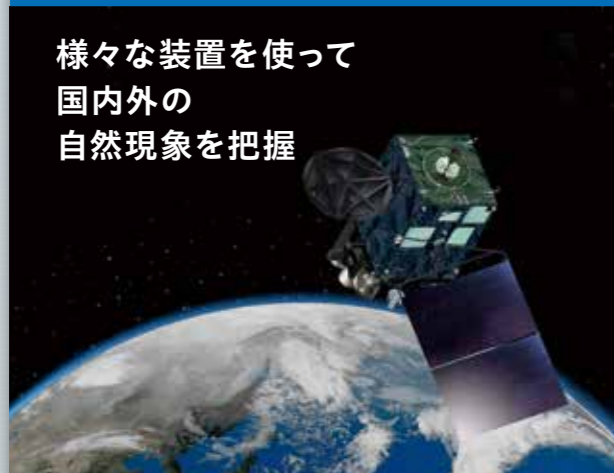
DATA FLOW 気象データの流れ

気象庁は、気象・海洋や地震・火山などの自然現象を常に監視・予測し、的確な情報を提供することによって、自然災害の軽減、国民生活の向上、交通安全の確保、産業の発展などを実現することを任務としています。気象庁では、これらの自然現象に関する防災気象情報を、防災関係機関にオンラインで迅速に伝達すると同時に、テレビ・ラジオやインターネットなどを通じて広く国民に発表しています。



データの収集

様々な装置を使って国内外の自然現象を把握



静止気象衛星「ひまわり」

気象レーダー観測

高層気象観測

地上気象観測／アメダス

地震観測・火山観測

\\ 8ページで詳細を確認 /

データの解析



全国の気象台で予報官が今後を予測し情報を作成

スーパーコンピュータ

気象情報伝送処理システム (アデス)

地震活動等総合監視システム (EPOS)

火山監視情報システム (VOIS)

\\ 9ページで詳細を確認 /

情報の提供



命を守るための情報や生活に密接に関わる情報を発信

天気予報

台風予報

津波警報

噴火警報

地震情報

航空気象情報

海上警報・予報

地球温暖化予測情報

\\ 10・11ページで詳細を確認 /

行政機関等

防災

- 首相官邸
- 内閣府
- 消防庁
- 国土交通省水管理・国土保全局
- 都道府県
- 市町村 等

交通安全

- 国土交通省航空局
- 海上保安庁 等

産業・環境等

- 農林水産省
- 環境省 等

報道機関等

- テレビ
- ラジオ
- 新聞
- その他メディア 等

民間気象事業者等

国民、船舶・航空機等



気象庁の行うこと

職員紹介

職場環境

福利厚生・募集要項

全国に配置したネットワークで大気の状態を24時間観測

気象衛星やアメダスなど様々な装置で観測データを収集しています。地上から上空までの大気の状態を正確に把握するため全国に設置した観測装置や気象衛星などで構成されたネットワークを敷いて、24時間体制で観測をしています。



データの解析

集めたデータを解析し、未来の気象状況を予測

観測データをもとに、スーパーコンピュータを用いて、未来の大気状態や気象状況を予測しています。その他にも、データの解析や警報・予報などの作成のために最先端のシステムを導入しています。

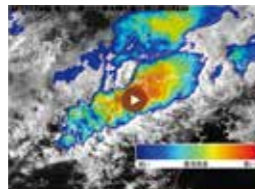
国際機関や海外の気象機関との連携

気象庁は、世界の中でも先進的な国家気象機関として、国連の世界気象機関をはじめ国際機関の活動に積極的に参加し、様々な国際会議で海外専門家との議論を行っています。観測データの国際的な流通の推進や数値予報モデルによる解析・予測情報の提供などを通じて世界各国の気象業務の向上に貢献しており、アジア各国の人材育成などでも指導的な役割を果たしています。



01 衛星観測で地球規模の気象状況を把握

静止気象衛星ひまわりは、雲などの観測を宇宙から行っています。この衛星は、赤道上空約35,800km、東経140.7度の位置から、常に地球を観測しています。現在のひまわりは9代目で、世界最先端の観測センサーを搭載し画像、温度や風などを連続して観測しています。そのデータは、台風、低気圧や火山噴火等の現象の把握のために利用され、予報精度の向上にも大きく貢献しています。



2023年7月10日3時~16時(JST) 雲頂強調画像

2023年7月10日の九州北部地方の大雨の気象衛星「ひまわり」による観測の動画



- 主な関連部署
- 内部局
- 情報基盤部
- 施設等機関
- 気象衛星センター

02 降水の強さや上空の風の分布をレーダーで観測

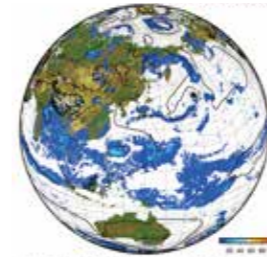
気象レーダーは、半径数百kmの範囲内に存在する降水の強さと降水域内の風の三次元分布を観測する装置です。日本の国土のほぼ全域を観測できるよう、全国20か所に配置しています。台風・集中豪雨・線状降水帯などの局地的大雨の監視における重要な観測手段であることに加え、大雨や大雪の注警報・土砂災害警戒情報・危険度分布などの防災気象情報の発表において最も重要なデータのの一つとなっています。



- 主な関連部署
- 内部局
- 大気海洋部
- 地方支分部局
- 管区气象台
- 地方气象台

01 スーパーコンピュータで「将来」の気象状況を予測

気象庁では、数千兆回もの計算を行うことができる高性能なスーパーコンピュータを用いて、国内外の観測データ及び大気の大気力学や熱力学などの物理法則に基づき、24時間365日、未来の大気状態をシミュレーションしています。これを数値予報と呼びます。数値予報の結果は、天気予報や季節予報、注意報・警報などの発表に利用されるほか、アジア地域をはじめとして世界各国に提供され、防災活動などに貢献しています。



全球モデルの予報例、日本時間の2023年8月12日9時を初期値とした264時間(11日間)の予報

- 主な関連部署
- 内部局
- 情報基盤部

02 気象情報伝送処理システムで国内外の気象機関などとデータ交換

※アデス
アデスは、気象庁の中核的な情報通信システムです。国内外の気象機関、部外機関を含む全世界から届く気象・地象・水象に関する観測値や予想資料などを受信し、庁内外のシステムに配信します。データの流通だけでなく、業務処理ソフトウェアで予報資料やコンテンツ作成なども行います。データを亡失することなく24時間365日無停止の運用を確保する必要がありますため、東京と大阪に二重に設置し、それぞれの運用状況を常時監視しています。



- 主な関連部署
- 内部局
- 情報基盤部
- 大気海洋部
- 地震火山部
- 地方支分部局
- 管区气象台

03 上空の気圧・気温・湿度・風向・風速などをラジオゾンデやウィンドプロファイラで観測

気象予報のためには上空の気象状況を知る必要があります。ラジオゾンデやウィンドプロファイラを使用します。ラジオゾンデにより、全国16か所の気象官署や昭和基地(南極)で、1日2回09時と21時に地上から高度約30kmまでの上空の気圧・気温・湿度・風向・風速等の気象要素を観測しています。また、ウィンドプロファイラにより、全国33地点で、10分間隔で高度300m毎に最大で12キロメートル程度までの上空の風向、風速を観測しています。



- 主な関連部署
- 内部局
- 大気海洋部
- 地方支分部局
- 管区气象台
- 地方气象台
- 施設等機関
- 高層気象台

04 全国を網羅したアメダスで地上を観測

天気予報でおなじみのアメダスは、全国約1,300か所に配置された観測所で、降水量・気温・湿度・風向・風速などの気象要素を観測しています。観測されたデータは、地域に根差した防災気象情報、数値予報、気候変動監視の解析の基礎資料に用いられるほか、日々の身近な気象情報として気象庁HPで閲覧されるなど、様々な分野で活用されています。



- 主な関連部署
- 内部局
- 大気海洋部
- 地方支分部局
- 管区气象台
- 地方气象台

03 地震や津波の観測データをリアルタイムで処理・解析

地震活動等総合監視システム(EPOS)は、気象庁及び国内外の関係機関より収集した地震波形データ、潮位波形データ、地殻変動データ及び震度データなどを24時間365日常時処理し、気象庁本庁及び大阪管区气象台において、地震・津波・地殻変動の監視並びに緊急地震速報、津波警報など、地震・津波に関する情報及び南海トラフ地震に関連する情報などを発表する、地震津波監視等業務を行うためのシステムです。



- 主な関連部署
- 内部局
- 地震火山部
- 地方支分部局
- 管区气象台

04 火山監視・警報センターで全国の火山を監視

火山監視情報システム(VOIS)は、各火山に設置している地震計や傾斜計、監視カメラなどの観測点からのデータを24時間365日常時処理し、札幌管区气象台、仙台管区气象台、気象庁本庁及び福岡管区气象台にある火山監視・警報センターで行う火山活動の監視、噴火警報や噴火速報、火山解説情報などの情報を発表するシステムです。



- 主な関連部署
- 内部局
- 地震火山部
- 地方支分部局
- 管区气象台

国民の生命と財産を守るために 防災に関する様々な情報を発表

我が国では、これまで様々な自然災害にみまわれてきました。気象庁では、地震や津波、台風や火山噴火による被害を軽減し、国民の生命や財産を守るため、様々な防災情報を発表しています。

JETT (気象庁防災対応支援チーム)の活動

気象庁は、市町村などの防災対応の支援を強化すべく、大規模な災害が発生した(または発生が予想される)場合に、都道府県や市町村の災害対策本部などへ各地の気象台からJETT(JMA Emergency Task Team 気象庁防災対応支援チーム)として気象庁職員を派遣しています。派遣された職員は、現場のニーズや各機関の活動状況を踏まえ、気象などのきめ細かな解説を行うことにより、地方公共団体や各関係機関の防災対応を支援します。



国民の生活を支援するために 暮らしに欠かせない天気予報や 交通安全のための情報を発表

テレビなどでおなじみの天気予報をはじめ、航空機や船舶の安全運航のために欠かせないデータや、地球温暖化など地球環境に関するデータを作成。国民の生活や産業に必要な不可欠な情報を発表しています。

南極での観測

気象庁は南極観測に第1次隊(1957年)から毎年数名の隊員を派遣し、通年での気象観測(地上気象、高層気象、オゾン、日射・放射など)や地磁気観測を行っています。観測データは長期にわたる地球環境変動の監視に幅広く利用され、特にオゾン観測では南極オゾンホール発見に大きく貢献するなど、地球規模の観測網の中で重要な役割を果たしています。また、南極の厳しい環境下での経験は専門技術の習得につながるほか、人的な国際交流も期待できます。



01 緊急地震速報をはじめとする、地震の情報を発表

地震発生直後に、各地での強い揺れの到達時刻や震度、長周期地震動階級を予想し素早く知らせる「緊急地震速報」を発表します。発生約1分半後に、震度3以上を観測した地域名を「震度速報」により発表します。発生約5分後に、地震の発生場所(震源)やその規模(マグニチュード)、震度3以上を観測した地域名と市町村ごとの観測した震度などを「震源・震度情報」により発表します。その後、「推計震度分布図」(震度5弱以上の時)、「長周期地震動に関する観測情報」を発表します。



主な関連部署 内部局 ●地震火山部

02 津波に関する情報をすみやかに発表

地震発生直後に、推定した地震の規模や位置をもとに沿岸で予想される津波の高さを求め、地震発生から約3分(一部の地震*については約2分)を目標に、大津波警報、津波警報または津波注意報を、全国を66区域に分けた津波予報区単位で発表します。また、津波警報・注意報を発表した場合には、津波の到達予想時刻や予想される津波の高さなどを津波情報で発表します。*日本近海で発生し、緊急地震速報の技術によって精度の良い震源位置やマグニチュードが迅速に求められる地震



主な関連部署 内部局 ●地震火山部

03 火山の状況や噴火の警報などを発表

気象庁では、火山監視・警報センター(火山センター)において、全国111の活火山の活動を監視しています。火山センターでは、噴火に伴って、生命に危険を及ぼす火山現象の発生が予想される場合やその危険が及ぶ範囲の拡大が予想される場合に「噴火警報」を発表します。また、登山者などに噴火の発生を端的に知らせる「噴火速報」や、噴火に伴う降灰が予想される地域やその時刻をお知らせする「降灰予報」なども発表しています。



主な関連部署 内部局 ●地震火山部 地方支分部局 ●管区気象台

04 台風や線状降水帯を常時監視し、予報を発表

気象庁では、台風や線状降水帯など、災害をもたらす現象に関する様々な情報を発表しています。台風については発生すると見込まれる24時間前から、台風の位置や強さなどの実況と5日先までの予報を発表し、テレビなどでは台風経路図として表示されます。線状降水帯については、半日前から発生の可能性を呼びかけています。



主な関連部署 内部局 ●大気海洋部 地方支分部局 ●管区気象台 ●地方気象台

01 日本全国の天気・気温・降水確率などを発表

大雨や暴風などによる気象災害の防止・軽減のため、危険度の高まりに応じて段階的に注意報・警報・特別警報を発表しています。また、激しい現象が予想される場合には事前に警戒を呼びかけるために、現象が発生した際には経過や防災上の留意点などを解説するために「気象情報」を発表しています。さらに、大雨による土砂災害や浸水害、洪水災害の危険度の高まりを地図上に示した「キキクル」を気象庁ホームページに公開しています。天気予報については、明後日までの府県天気予報や7日先までの週間天気予報、地域ごとの時系列予報などを発表しているほか、一定期間の平均気温などを予想した季節予報を行っています。



主な関連部署 内部局 ●大気海洋部 地方支分部局 ●管区気象台 ●地方気象台

03 船舶の安全運航のため、風や波、水温などの情報を発表

船舶の安全運航を支援するため、強風・濃霧・着氷などの悪天に関する海上警報や、天気や風、波の高さなどの海上予報を発表しています。気象庁の海洋気象観測船や、航行中の民間船舶から送られてくる気象・海況の通報、海洋に展開している自動観測装置(ブイ、フロートなど)や人工衛星その他さまざまなシステムから得られた観測データをもとに各種天気図を作成し、船舶向け天気図として発表しています。これらの情報を、海上保安庁と連携した無線通信やインターネットなどで船舶に提供しています。



主な関連部署 内部局 ●大気海洋部

02 航空機の運航のために、各空港や上空の気象情報を発表

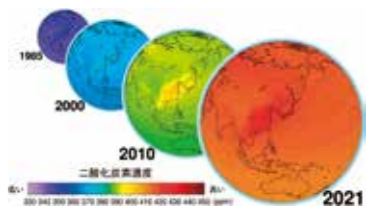
航空機は大気中を飛行しており、空港での離着陸時を含め常に気象の影響を受けます。航空機の安全・経済的な運航のため、様々な航空気象情報を提供しています。空港及びその周辺の風、気温、雲などの状況を観測して提供するとともに、国際定期便などが運航している空港では30時間先までの飛行場予報を発表しています。また、飛行空域の悪天や火山灰に関する情報・予報を発表・提供し、飛行経路の選定や飛行中の航空機の流れを円滑に保つための管理などに利用されています。



主な関連部署 内部局 ●大気海洋部 地方支分部局 ●航空地方気象台 ●航空測候所

04 気候変動に関する観測・解析・予測情報を発表

地球温暖化をもたらす温室効果ガスの濃度、気温や雨の降り方、海面水位や海洋が蓄えている熱の量などの長期的な変化を観測・解析し、気象庁ホームページや「気候変動監視レポート」などを通して発表しています。また、こうした観測・解析情報と、他省庁と協力して実施した将来の日本の気候変動の予測結果をまとめて、「日本の気候変動2020-大気と陸・海洋に関する観測・予測評価報告書-」として公表しています。



主な関連部署 内部局 ●大気海洋部

「入庁1年目に聞く
仕事とやりがい」

「気象庁で働きたい」——様々な思いや夢を抱いて入庁した若手職員たちは、どのような職場環境で、どういったやりがいを感じながら働いているのでしょうか。入庁1年目の職員3名に話をいただきました。

皆さんが気象庁を志望した理由、そして現在の業務内容について教えてください。

天 野: 小学生の頃に雲が動いていることに感動したことがきっかけで、気象が好きになり興味を持ちました。大学では気象学を学び、授業を通じて防災にも関心が広がりました。就職活動中は民間の気象会社も検討したものの、仕事への向き合い方において私には公務員が向いていると感じましたし、注意報や警報といった情報を出せるのは気象庁だけだと知って、より一層防災面で貢献できる気象庁を志望しました。群馬県の前橋地方気象台で地上気象観測業務を担当しています。気象台では毎日気温や降水量等を観測しており、そこで使用する観測機器の管理・点検、気温や降水量などのデータ管理が主な仕事です。また、補助当番と呼ばれる業務では、天気の間い合わせなどに答える電話対応や、雨雲レーダーなどのツールを活用した雨等の実況監視を担当しています。

三 宅: 私は大学で政治学を専攻していたので



ですが、同時に近年の異常気象にも関心があり、中でも梅雨時期の豪雨が九州などで引き起こす自然災害のニュースを目にする中で、自分も被害を最小限に抑える仕事の一部として働きたいという気持ちが湧きました。文系出身ですが、事務方として貢献できることはたくさんあるのではないかと思います、この仕事を選びました。入庁後は東京管区気象台の会計課で契約業務を担当しています。現場から聞く「こういう契約をしたい」という仕様書を元に業者を探し、見積依頼や金額交渉を行って契約書を交わしたり、履行後に支払いをしたりします。私は岐阜・名古屋・津・銚子の各地方気象台で発生する契約案件を担当しており、各所の電話回線と郵便料金の契約や支払いも受け持っています。

徳 永: 私も天野さんのように日々変わる空を見るのが好きで気象に興味を持ち、大学では気象学を学びました。仕事について考えた時、近年自然災害が多い日本の中で気象庁は自治体と連携を取りながら国民の役に立つ仕事を行っているところが強みだと感じ、気象庁で働きたいと思うようになりました。毎年のように起こる九州の大雨で祖父母が暮らす地域が被害に遭ったり、2016年の熊本地震では自分も被災したので、人を助けたい、減災に向けた活動をしたいという気持ちがあります。名古屋地方気象台では、3時間おきに雲の形や量、天気を観測して発信する定時観測、そしてアメダスの観測地点から届く気温や雨量データに不具合を発見した時に障害対応を行ったり、管理地台へ障害発生時の共有や連絡を行う

Amano Yuka
天野 友香
前橋地方気象台

日々の天気予報や警報・注意報発表に、地上気象観測は欠かせません

Miyake Tomoki
三宅 智己
東京管区気象台
総務部 会計課
第二契約係

外部業者との様々な契約を通じて気象庁を支える大切な仕事です

Tokunaga Kenta
徳永 賢太
名古屋地方気象台

自分の観測業務が人々の日常生活に役立っていることを感じます

「障害一次対応」を担当しています。また、発表する予報や注意報、警報に誤りがないか、部外へ正確な情報として伝わっているかどうかを確認する予報補助当番の仕事もあります。



入庁して約1年が経ちますが、職場環境についてどんなことを感じていますか？

天 野: 念願だった業務に携わっており、楽しく働いています。実際に入庁してみると想像していた以上にアットホームな職場で、テレワークなどを活用した柔軟な勤務もできる働きやすい環境だと感じています。観測予報グループには10名弱の職員がいて現在女性は私一人ですが、わからないことがあれば先輩や上司から優しく丁寧に教えていただけますし、こちらからも質問がしやすい雰囲気です。群馬県での赴任は、初めての土地ゆえ市町村の名前や位置関係が全くわからず苦労もありましたが、今ではかなり慣れてきました。

徳 永: 名古屋地方気象台の観測予報グループの場合、日勤と夜勤があって6人構成の班単位で勤務するため、何か教えてい

ただく時は同じ班の先輩や上司に聞いています。仕事経験はもちろん土地勘もゼロの状態から始まったので、同期や先輩、上司に助けられながらここまで来ました。職場は会話も多くて明るい雰囲気なので、仕事へのモチベーション向上にもつながります。学生時代に気象庁の雰囲気を知るために何回か説明会に参加し、若手職員同士が笑顔で話している様子を何度も見て、ここなら気持ちよく働けそうだと感じたのですが、実際その通りでした。

三 宅: 入庁前は、職場の雰囲気やどんな仕事を担当するのだろうかとか緊張感もありましたが、事務方には色々な仕事があって役割分担も細かく分かれており、今は様々な人と関わりながら仕事することに楽しみを見出しています。文系出身で気象業務に詳しくなくて大丈夫だろうか？という不安については、周りの先輩方も気象以外のことを学んできた人が多いので安心しました。会計課では会計法などの専門知識も業務範囲内で必要ですが、入庁後の長期研修に加えて2年目や3年目に受けられる研修制度もあるので、焦らず長期的に勉強していくことが大事なのだと考えています。

皆さんが仕事でやりがいを感じるのはどんな時でしょうか？ また、仕事をする上で心掛けていることを教えてください。

三 宅: 契約金額が数百万円にもなるような案件では、無事に会計課の決裁が下りて現地にその報告ができた時に、気象庁の大きな仕事を裏から支えているという実感があって非常にやりがいを感じます。契約では業者とのやりとりを円滑に進めるためにわからないことがあればすぐに確認したり、周囲の人と状況を共有してできる限り一人で抱え込まないように心掛けています。同じ案件を担当している他の係の人にも何かあればすぐに聞くことは大事



—— 無事に契約締結して現地からの要望に応えられた時は嬉しいです

です。入庁したての頃は何もかもわからなくて大変でしたが、そうやって事あるごとに聞きながら勉強してきました。この仕事が好きなので、スキルを磨いて会計のことなら色々知っている職員になりたいです。

天 野: 担当している地上気象観測業務で得た観測データは、気象庁のみが発表できる注意報や警報に関わっています。そのような多くの人に影響を与える大切な情報に自分の業務が関わっていることに対して非常にやりがいを感じます。仕事をする時に気をつけているのは天気などの問い合わせをいただく電話対応で正確な情報をお伝えすること。きちんと確認した上で伝えるように心掛けています。

徳 永: 初雪や桜の開花といった気象台の観測結果がニュースで紹介されると、自分の仕事の人々の生活を支えているのだとやりがいを感じます。また、気象台と各自治体との防災面での連携の中で、災害時に必要とされる情報内容について各市町村長から直接要望を聞くことができるのは貴重な学びです。仕事での心掛けは、誤った情報を伝えること。ミスが許されない仕事ですから予報を発表する前の天気予報が間違っていないか、注意報・警報の内容と該当する市町村に誤りがないか二度三度と重ねて確認しています。緊張感を伴う仕事ではありますが、定時観測中に珍しい雲や太陽と月の上り下りする瞬間を目撃できた時には、改めてこの仕事が好きだなあと感じます。



—— 正しい情報を提供するためにデータの丁寧な確認は欠かせません

最後に、気象庁で働きたいと考えている学生の皆さんへメッセージをお願いします。

徳 永: 学生の方は今後の人生について大きな決断をしようとしているタイミングでしょうし、社会人になって働くことへの楽しみや不安があると思います。まずは気象庁が開催している説明会に参加して職場の雰囲気を知らってもらうのが良いかもしれません。職場は明るく、皆さん元気に仕事をしています。気象が好きで、国民の支えになりたいと考えている人がいれば、ぜひお待ちしております！

天 野: 気象庁は柔軟な働き方ができ、アットホームでもとても働きやすい職場です。また、私自身、自分の好きなことを仕事にして楽しく働くことができているので、皆さんにも自分の好きなことややりたいことを仕事に選んでもらえたら良いと思います。気象庁には予報業務以外にも様々な業務がありますから、皆さんの好きなことややりたいことと気象庁の業務が一致するのでしたら、ぜひ入庁してもらいたいと思います。

三 宅: やりたいことを決めてから入庁するのも一つの考え方ですが、今はやりたいことが定まっていなくても、働き始めてから視野が広がって自分に向いている仕事を見つけれられることもあります。私も入庁してから事務方の仕事が多様であることがわかりました。色々な人と働いたり、会話したりしながらキャリアを考えていくのも一つの方法だと思います。気象庁に入ってから色々な可能性を見つけてもらえたらいいですね。



—— 念願だった気象庁での仕事。防災面でも貢献していきたいです

R5.4採用 総合職(院卒)
数理科学・物理・地球科学

本庁 地震火山部 火山監視課
火山監視・警報センター
一般職員

石橋 桜
ISHIBASHI SAKURA



MY SECTION 所属部署について

気象庁本庁に設置されている火山監視・警報センターでは、東京管区気象台管内にある20の常時観測火山を24時間体制で監視しています。噴火が予想される場合や噴火が起きた場合は速やかに警報や情報を発表し、必要に応じて噴火警戒レベルを引き上げます。

JOB EPISODE 仕事のエピソード

発表した情報が実際に報道されているのを目にすると、多くの人に伝わっていることが実感できて嬉しくなると同時に、この手で出す情報のひとつひとつがその先にいる実際の人々の生活に影響を与えるものであると改めて感じて気が引き締まります。日々の小さな喜びは、監視カメラの映像を確認する際に、各地の山の美しい朝日や夕日、紅葉などをリアルタイムに見られることです。時折流れ星も見えます。



MY REASON 入庁のきっかけ

防災情報は、早く・正確に・より多くの人に伝わるのが重要です。利益の追求と「より多くの人」への情報提供の両立は難しいため、確実にこれらを実現できる場は、やはり信頼と影響力を以て広く社会に情報を還元できる「国の機関」である気象庁において他にないと感じました。また、全国転勤があり、様々な職場を体験できることや、職場見学で感じたアットホームな雰囲気も魅力でした。

FIELD OF STUDY 学生時代の専攻

大学3年次の実習で、噴火の最中の阿蘇火山を目前にして感動したことから火山物理学を専攻しました。その後の研究生活で経験した全てが今の仕事に繋がっていると思います。例えば、観測で火山地帯を歩いた経験や、地元の人と話した経験は、データの先にある実際の人々の生活を想像することに繋がりと、監視のモチベーションとなっています。また、地下の現象は実際に目で見ることができないので、手元にあるデータから想像するしかありません。研究で身に付けた、解釈の為の基本的な考え方には大いに助けられています。

1日のスケジュール

日勤	夜勤
9:00 出勤、引継ぎ	16:30 出勤、引継ぎ
9:30 始業点検	17:15 始業点検
10:00 監視業務	17:45 監視業務
10:00 休憩※1	18:30 各センターとの情報共有・意見交換会
12:45~13:15 私の休憩時間は12:45~13:15です。監視上切迫した出来事がなければ、班内で交替で休憩に入ります。	テレビ会議システムで他管区・地方気象台の火山監視センターと繋ぎ、情報共有を行います。
	休憩※2
	仮眠をしたり、食事を摂ったりして過ごしています。
	21:30 班内会議訓練など
	休憩※2
	休憩※2
16:45 引き継ぎ	9:00 引き継ぎ
17:15 退勤	10:00 退勤

※1. 30分の休憩を交替でとれるよう勤務体制が組まれています。
※2. 30分~45分の休憩が3回設定されています。

火山活動を24時間体制で監視する



R2.4採用 一般職(大卒) 物理

札幌管区気象台
気象防災部 予報課
一般職員

山口 小雪
YAMAGUCHI KOYUKI



MY SECTION & JOB 所属部署及び担当業務について

予報課の現業班に属しており、交替制勤務で24時間365日天気と向き合いながら、日々の天気予報や、危険度の高まりに応じて、注意報・警報・特別警報などの防災気象情報を発表することが主な仕事です。

JOB EPISODE 仕事のエピソード

変化していく天気に対応して、迅速かつ的確に注意報・警報を発表する必要があります。熟練の予報官のサポートのもと対応を行っていますが、気象現象に対する知識の深さはもちろんのこと防災への意識も高く、勉強の日々です。自分の発表した天気予報や気象警報・注意報が、テレビやラジオで報道されるなど、日頃から国民の生活の役に立っていると感じやすい仕事です。特に、警報の発表は、自治体の発表する避難指示や学校の休校などの判断材料となり、国民一人一人に影響を及ぼすため、発表の際は緊張しますがやりがいを感じます。また、初めて天気予報を発表しテレビで放送された時には、身が引き締まる思いとともに、感慨深いものがありました。



MY REASON 入庁のきっかけ

小さい頃から登山や釣りなどアウトドアを行い、自然と触れ合う機会が多かったです。そのため、自然科学に興味を持ち、大学では地球環境科学を専攻しました。そして、その知識を生かした仕事がしたいと考えていました。また、天気予報は「傘が必要になるかどうか」など、人々の生活に欠かせません。日々の生活に役立つ縁の下力持ちのような仕事がしたいと考えていたこともあり、気象庁を選びました。

職場の雰囲気

日頃からコミュニケーションが活発に行われている職場だと思います。警報を発表するような天気の悪い時には、予報現業の現場に普段の倍以上の方が出入りし、会話が飛び交い慌ただしい雰囲気になりますが、そのような中でも、周囲の予報官や先輩が手厚くサポートして下さるので、初めは分からないことが多くても安心して働けます。



みんなに伝えたい！ 職場の魅力

予報を行うための通信機器の整備保守を行う通信業務や観測測器の保守点検を行う観測業務など、様々な業務に携わっています。それぞれのプロフェッショナルから学ぶことができるので面白いです。また、業務の一つとして調査研究があり、自分の興味のあることを深堀りすることもできます。様々なことを経験したい方も、とことん追求したい方も、満足できる職場だと思います。

生活に欠かせない天気予報や防災情報を発表



R3.4採用 一般職(大卒) 物理

本庁 大気海洋部
予報課 航空予報室
航空気象観測班
一般職員

稲垣 明日比

INAGAKI ASUHI

職場の雰囲気

年次休暇の取得を勧められたり、難しい仕事があるときに上司に相談しやすかったりと、働きやすい環境です!



MY JOB 担当業務について

普段はADRAS(空港気象ドップラーレーダー観測処理システム)、LIDEN(雷監視システム)、AIMOS(航空統合気象観測システム)、ALIS(航空気象実況データ収集処理システム)といったシステムのリアルタイム監視を実施しており、障害発生時は一次対応にあたっています。また集配している観測データの品質管理も行っています。加えて担当としてはAIMOSについて運用状況報告の作成、点検結果の取りまとめ及び整理、自動化導入検討資料のデータ保存を行っています。また、職員が業務を遂行するときに参照するイントラサイトの更新を行っています。



既卒や民間等で働いていた方など、
新卒以外で入庁した方もいます!

JOB EPISODE 仕事のエピソード

最初の配属先である福岡航空地方気象台では、運航に影響する気象の変化が発生した場合に通報する特別観測通報というものがあり、特に悪天の時は航空機の安全に関わるためいつも以上に緊張感を持って実況に注意しつつ何回も観測及び通報をしなければならず大変でした。気象観測機器の点検も行うのですが、その点検中に航空機の乗降客を見かけることができましたが、その時にこの点検作業は航空機の安全な運航のために必要であり、空港を利用する皆様の役に立っていると感じます。

みんなに伝えたい! 職場の魅力

私の職場の航空気象観測班は交替制で勤務を実施しているため、引継ぎをして勤務時間が終わればすぐに帰宅される方が多いです。また人によっては日勤夜勤をお休みして前後の公休も合わせて帰省や旅行などされている方もいます。航空地方気象台での勤務だと離着陸する航空機を間近に見ることができ、目にする航空機が安全に離着陸するために業務をしていることを実感できます。観測機器の点検では航空機の近くを移動することもありなかなかできない体験があります。また、空港で実施される空の日イベントに参加ができます。当班(気象庁本庁)での勤務だと同じフロアで天気予報や警報・注意報などの防災気象情報を作成・発表しているため学べることもあると思います。空港設置のドップラーレーダーの点検に出張することもありますが普段は見られないレーダーの内部を見ることができます。本庁は最寄り駅の虎ノ門ヒルズより徒歩5分ほどで立地が良いです。

官庁訪問の思い出

私が就職活動をしていた頃は、コロナ禍ということもあり、省庁によって官庁訪問が直接対面のところとリモートのところがありました。気象庁はリモートだったため技術系官庁らしさを感じました。

気象観測を通して航空機の安全な運航を支える



R4.4採用 一般職(大卒) 化学

佐賀地方気象台
一般職員

武内 悠真

TAKEUCHI YUMA



MY SECTION 所属部署について

アメダスの維持管理を担当しています。観測装置は、当然のことながら雨風にさらされており、正確なデータを得るためには、機器の点検、清掃が必要です。そのため、定期的に佐賀県内の観測所に赴き、点検、清掃を行っています。また、観測機器は設置場所の環境に大きく作用されるため、機器の清掃はもちろん、周囲の草取りを行うことも大切な業務となっています。観測装置の維持管理以外にも、災害の調査や支援、学校や地域の方への防災授業、気象の解説などを行っています。



気象の知識がなくても心配はいりません。
迷わず気象庁に飛び込んでください!

JOB EPISODE 仕事のエピソード

気象・防災の普及啓発の一環で、佐賀県内の小学校で授業をすることがありました。これまで、大勢の子供たちの前で話をする経験がなかったので、難しい気象の話のわかりやすく変換させて、話をしましたが理解できていたか、正直不安でした。しかし、後日、子供たちから手紙をいただき、そこには、「分かりやすかった。勉強になった。授業で習ったことを家族に話した。」などの嬉しい感想が書かれていました。自分自身が、防災の普及啓発の一端を担ったことを感じました。また、気象庁が発表する情報を一般の方に分かりやすく説明することの重要性を再確認できました。

MY REASON 入庁のきっかけ

大学4年時に、漠然と公務員になろうと考えていましたが、どのような職種にするかなどは何も考えていませんでした。様々な省庁の説明会に参加した中で、気象庁の業務内容は、普通に生活していたら経験できないようなものが多く心が躍ったことが決め手の一つでした。加えて、温室効果ガスやオゾン層などの環境気象観測の分野で、これまでの知識が生かせるのではないかと考えたことで、気象庁を選びました。

職場の雰囲気

分からないこと、困ったことがあれば何でも相談できる雰囲気です。私は、入庁まで気象関係の勉強をする機会がありませんでした。そんな知識ゼロの私に対しても、一から懇切丁寧に指導して下さる優しい先輩職員の方々がいる職場です。

みんなに伝えたい! 職場の魅力

気象庁の業務は生活に密着していることが多く、昼夜を問わず行う必要があるため、社会的意義の高い業務であると感じます。人間が社会生活を送る上で、気象情報は必要不可欠なものであり、日々の社会生活を支えていることが、気象庁の業務の一番の魅力であると思います。また、希望すれば離島や南極で勤務することが可能です。都会の喧騒から離れて働きたい人にとっては魅力の一つであるかもしれません。

アメダスの維持管理や、小学校での授業も行う



R4.4 採用 一般職(大卒) 土木

広島地方気象台
一般職員

笠舂 悠真

KASAMASU YUMA

広島県と岡山県の短期予報を主に担当しています。短期予報とは今日(今夜)、明日、明後日の天気や気温、降水確率などを予報する業務です。

JOB EPISODE 1 仕事のエピソード

初めて予報の引継ぎを聞いた時は、何もわかりませんでした。毎日5時に発表する予報については夜勤者に与えられている裁量がとても大きく、様々な資料を参考にすると共に、経験豊富な予報官の方々からの指示を受けながら、発表する予報を自分なりに考える必要があります。また、朝の引継ぎ時間では発表した予報について日勤担当の予報官や防災業務の担当者に説明をする必要があります。この引継ぎの時間が一番緊張します。気象については日々勉強しているところですが、自信を持って予報について説明できるようになるために、予報や気象の知識を増やしていくことが重要であると強く感じています。

JOB EPISODE 2 やりがいを感じた瞬間

気象については、ほとんど何も知らない状態で入庁しました。そのため、雲の種類があり名前があることや、気象庁が業務として観測している事も知りませんでした。なので、観測当番に入るまでに一通りの雲の名前と特徴を必死に覚えめました。当番に入ってから判断に迷う雲は周りに相談して観測するなどして確実な観測を心掛けました。

雪の観測では、その季節を特徴づける現象としてその年初めて降る雪は広島地方気象台の職員が目視で観測し「初雪」として通報(発表)しています。この年の初雪は私が当番のときに観測し通報したのですが、先輩から初雪があるかもしれないと言われて、その日は朝から現業室の窓に張り付いて監視を続け、そのあと雪を観測して広島地方気象台の初雪を通報しました。発表後は報道機関からの問い合わせの電話を多数受けて、気象庁(気象台)から発表する情報は世間から注目されていることをあらためて実感する機会となりました。

みんなに伝えたい!
職場の魅力

私のように、気象とは関係ない分野からやって来るような人もいますが、災害から財産、命を守るという気象庁の使命に共感したことに変わりないと感じます。私たちが発表する情報一つ一つが重要で、被害を軽減することに繋がっています。そして、現象の最後には警報や注意報を解除しますが、被害が何も無く平和に終わった時が安堵できる瞬間です。

MY CHALLENGE これからチャレンジしたいこと

入庁後これまで予報業務を中心に従事していますが、学生時代は土質力学を専攻していました。専攻に関連する気象庁の業務として、土砂災害警戒情報の発表等、防災気象情報の提供があります。今後、庁内の様々な部署において多くの仕事に携わりたいと考えていますが、自身の専門性を活かすことが可能な、このような防災気象の最前線における業務にも積極的にチャレンジしていければと考えています。

R2.4 採用 一般職(大卒) 化学

本庁 大気海洋部
環境・海洋気象課
一般職員

落合 尚子

OCHIAI NAOKO

MY SECTION 所属部署について

環境・海洋気象課では、海水の温度や塩分、酸性度や二酸化炭素などの化学成分についての高精度な海洋観測を行っています。これら観測データを解析し、各省庁や自治体の気候変動対策に活用していただくための情報を提供することも私たちの重要な仕事です。

船の揺れに耐えながらの分析は大変ですが同時に大きな達成感を得ることもできます!

JOB EPISODE 1 業務の魅力

海洋気象観測船による海洋気象観測業務についています。具体的には、海洋気象観測船に乗り、採取した海水の酸素濃度などを船上で測定しています。船上では目視による大気現象や波浪の観測、高層気象観測なども行っています。また、乗船していないときは船での観測や分析に用いる機器、試薬の準備を行っています。船上での高層気象観測から深海までの海洋観測、海上の気象から気候変動に関連する成分の分析まで様々な時間・空間スケールの観測ができる部分が面白いと思います。また、採取した海水の成分を船上の分析機器を用いて数値化し、その場で海洋の状況を実感できることも面白いです。観測結果は降水量や波浪の予測、気候変動の実態解明に用いられるので責任感とともにやりがいも感じます。

JOB EPISODE 2 やりがいを感じた瞬間

最初の配属先である山形地方気象台で地球温暖化の原因や対策について小学校の授業に講師として参加した際、児童が積極的に質問をし、関心を持って行動に移そうとしてくれたことがうれしかったです。児童の気候変動への関心の高さを直接感じたこの経験が海洋気象観測に従事する際のやりがいにもつながっています。

FIELD OF STUDY 学生時代の専攻

理科の授業や実験が好きで、身の回りにある物質や現象に深く関わりのある化学に興味があったことから、化学について幅広く学べる理学部化学科へ入学し、分子構造解析に関する研究室に所属していました。基礎的な化学の知識、実験器具や薬品の取り扱いに関する知識は、海洋気象観測業務での新たな知識や技術を得る際に役立っています。

みんなに伝えたい!
職場の魅力

気象庁の業務は多岐にわたり、様々な分野や職種、勤務地があるところ、それらの経験を通して新たな知識や技術を得られるところが魅力だと思います。大学での専攻が異なっても自然や防災に興味があればやりがいを感じられる職場です。

県内の天気予報や山陽地方の注意報・警報の発表を行う

海洋気象観測船で海水や波浪を観測



H24.4採用 II種 電気・電子・情報

本庁 情報基盤部
情報通信基盤課
第一施設係長

齋藤 優

SAITO SUGURU



MY SECTION & JOB 所属部署及び担当業務について

情報通信基盤課は、気象庁の基盤となる情報システムを取り扱う部署です。気象データを集配する気象庁の基幹となる伝送処理システムや大気の状態の数値シミュレーションを行うスーパーコンピュータシステムなどの予算要求から整備、運用、内製開発まで情報システムに係る幅広い業務を行っています。私は現在、予算計画班に所属しており、気象庁の情報システムの予算に関する業務を行っています。国の予算編成に合わせ、予算要求を行うためのデジタル庁や財務省への説明資料の作成や業者との調整を行うことが主な業務となります。

JOB EPISODE 担当業務の魅力

気象庁では予報や観測といった自然現象や防災に係る業務が中心となっておりますが、それらのデータを収集し国民の皆様へ提供するまでには様々な技術を活用したシステムによって実現しています。これらのシステムの構成や運用を考え、関係部署と連携して作り上げていくところに面白さがあると思います。

MY REASON 入庁のきっかけ

就職活動時期に東日本大震災があったこともあり、国家公務員合同説明会の中でも興味がかかれた省庁の一つでした。気象庁を選ぶ決め手となったことは、内製開発を行っていることです。もともとモノづくりが好きでプログラム開発に興味があり説明会の中でもそういった人材を求めているとお話いただいたことでエントリーさせていただきました。

FIELD OF STUDY 学生時代の専攻

ハードウェアからソフトウェアまで動くものを作るための知識を一通り学べることから電気工学を専攻しました。気象庁の観測業務では測器といったハードウェア、情報通信業務ではサーバなどの機器やアプリケーションといった両方の知識が必要なのでどの場面でも役立つ場面があった印象です。

キャリアパス

1年目

福岡航空測候所
観測課

3年目

気象庁
予報部情報通信課
データネットワーク管理室
プログラム班

7年目

大阪管区気象台
気象防災部通信課
プログラム開発班

9年目

気象庁
予報部情報通信課
データネットワーク管理室
テーブル班

10年目

デジタル庁
省庁業務サービスグループ
出向

みんなに伝えたい！ 職場の魅力

気象庁は学生時代に培った知識を生かすことも出来ますし、業務を通して新たに身につけていくこともできる職場です。近年、様々な災害が毎年のように起きている中、国民生活に直結した行政サービスを安定的に提供していくという面で魅力的な職業だと思いますので、もし興味がありましたらエントリーしてください。



H25.10採用 一般職(大卒) 物理

仙台管区気象台
気象防災部 予報課
技術主任

池田 翔

IKEDA SHO



MY SECTION 所属部署について

仙台予報課では、東北の人々の生命と財産を守るために、警報・注意報、天気予報等を24時間絶え間なく発信しています。具体的には、数値予報モデルによる予想結果と観測データの解析を基に東北地方の気象シナリオを組み立てます。地方気象台と連携し、毎日5、11、17時を基本としつつ随時、東北6県の警報・注意報や天気予報等を更新します。

JOB EPISODE 仕事のエピソード

いま、気候変動の影響によって、私たちの生活は大きく変わっていく可能性があります。ひと昔前には経験がなかったような豪雨・豪雪、強い台風等による災害や高温による熱中症、農作物の不作等も懸念されています。このように多方面で直面している問題に対し、今後ますます的確な気象情報が必要だと考えられます。このため、職員は強い使命感を持って日々仕事に取り組んでいます。例えば、リアルタイムの気象警報・注意報の発表は、気象庁しかできない業務のひとつです。大雨や大雪による悪天時には、関連する気象情報も含めて更新頻度が多くなるため、入念にチェックしながらプロダクトを発信します。そのぶん気を遣い大変なことも多いのですが、自分自身の関わった気象情報が世の中に出ていくことは、やりがいを感じる瞬間のひとつです。

FIELD OF STUDY 学生時代の専攻

大学では気象学を専攻しました。小さい時に野菜作りが好きで、冷夏等の天気との関係に関心を持って天気図を眺めているうちに、気象を学び将来の仕事にしたいと思うようになりました。予報現業に必要な大気科学を習得する場面では、大学で学んだ物理、数学、気象学、また卒業研究で扱った数値予報モデルや気象観測の経験が基礎として役立っています。しかし、気象学を学んでいなくても、入庁後の様々な研修等を通して皆スキルアップしていくので、心配は不要です。

これまでの道のり

1年目

札幌管区気象台
気象防災部予報課

観測予報業務に従事し、生まれて初めて北海道の天気を体験しました。

3年目

自己啓発休業制度を利用

大学院での修学。気象学の研究室で、高解像度の数値予報データの作成と農業への応用を学びました。

5年目以降

仙台管区気象台管内で職務に従事

みんなに伝えたい！ 職場の魅力

予報現業では、数値予報モデルでも完全には予想できない現象があるため、人間の経験や夜間も含めた気象監視を基に、常に適切な気象シナリオを維持していく必要があります。こうして、予報プロダクトを遅滞なく発信し、気象災害から人々を守るメッセージを伝えることに仕事としての魅力があると考えます。



予報の基盤となる情報システムを最適化



東北地方の気象を予報・発信



H24.4採用 II種(物理)

福岡管区気象台 気象防災部
地域防災推進課
要配慮者対策係長

坂田 成美

SAKATA NARUMI

仕事も家庭も
自分らしく。



制度が充実しているだけでなく、実際に利用しやすい雰囲気があるところが気象庁の魅力です。

MY SECTION 所属部署について

地域防災推進課では、気象情報を用いた県や市町村、地域の方々が行う防災活動の推進をサポートしています。他にも、産業向けの気象情報の活用、地球温暖化に関する知識の普及、災害に関する調査や報告書の公表などを行っています。要配慮者対策係では、災害が発生したときに特に配慮や支援が必要となる要配慮者（高齢者、障害のある方、乳幼児その他）の被害を減らすため、市町村や要配慮者が利用する施設の管理に携わる方が、気象庁の発表する情報を活用できるようお手伝いしています。

JOB EPISODE 仕事のエピソード

要配慮者対策係の業務は気象庁の中では新しい業務です。このため、これまではあまり気象庁と関わりのなかった機関との関係を新しく築いていく必要があります。相手のある仕事であるため、なかなか自分がイメージした通りに進めたり結果を出したりすることができず、もどかしい思いをすることも少なくはありません。そんな中、こちらからコンタクトをとったことがきっかけとなり、ある機関から防災イベントへの協力依頼をいただいた時はやりがいを感じました。

MY VISION 将来のビジョン

家族との時間を大切にしながら、これまで以上に仕事にも意欲的に取り組んでいきたいです。また、私自身、周りの方々や両立を支援する制度に助けられて仕事を続けられているため、若い方や様々な事情を抱える方が制度を利用し、無理をせず自分らしく働くためのサポートができるようになりたいです。

1日のスケジュール



仕事と家庭、どちらからも充実する働き方を。

私が利用した制度です！

- ◆ 産前産後休暇
- ◆ 育児休業
- ◆ 育児短時間勤務
- ◆ 育児時間
- ◆ 看護休暇
- ◆ テレワーク

気象庁には他にも、ワークライフバランスを実現するための様々な制度があります。

ワークライフバランスを実現するために

現在1日2時間の「育児時間」を取得しており勤務時間が短いため、限られた時間内で効率よく業務を進める必要があり、産休・育休取得前よりも更に仕事の優先順位やスケジュール管理を意識するようになりました。また、オンとオフをしっかりと切り替えるようにしています。

H27.4採用 一般職(大卒) 物理

中部航空地方気象台
技術専門官

緒方 香都

OGATA KOTO



H23.2採用 II種(物理)

気象研究所
全球大気海洋研究部
第一研究室 主任研究官

吉田 康平

YOSHIDA KOHEI



MY SECTION 所属部署について

中部航空地方気象台は、前身は名古屋空港に居を構える名古屋航空測候所として航空気象情報を提供していました。平成17年の中部国際空港開港に合わせ、中部航空地方気象台として開台し、気象庁の中では比較的新しい地台です。各地台が「防災」に注力する中、航空地台として空港の局地気象の観測及び予報という「気象」と日々向き合っています。



これまでの道のり

1年目
中部航空地方気象台
観測課
霧や雷の観測に苦労しながら、諸先輩方に教えていただきました。

3年目
高層気象台
観測第一課(南鳥島)
マーカスでの観測も含めて色々周りにの方にサポートいただいた思い出ばかりです。

5年目
本庁・南極観測事務局
61次の気象隊として南極観測に挑むメンバーと和気あいあい、様々な研修等も受けつつ準備に励む楽しい毎日でした。

6年目
第61次南極地域観測隊
最高に思い出深い勤務をすることができました。

7年目
本庁・航空予報室
久しぶりの航空気象で周囲のメンバーがフォローしてくれました。

MY JOB 担当業務について

主に観測関係の業務を担当しており、メインとしては空港気象ドップラーレーダーの管理を任されています。空港周辺のマイクロバースト(MB)やウインドシア(WI)の観測が空港気象ドップラーレーダーで滞りなく行われるように日々の点検や業者による点検を適宜計画し、運用に支障のないよう維持管理しています。

MY REASON 入庁のきっかけ

元々、幼いころからペンギンが好きで、自分の目で野生のペンギンを見るのが夢でした。大学で気象学と出会い、南極の大気の研究に触れる機会を得て、気象庁の南極観測に興味を持ったことがきっかけです。気象庁に入庁したおかげで、南極の大気を直接観測することができましたし、野生のアデリーペンギンやコウテイペンギンに会うことができました。

JOB EPISODE 仕事のエピソード

南極勤務の経験

南極地域観測隊は自分が担当する観測だけじゃなく、済むところではありません。気象庁が担当している気象観測の他にも研究者の最先端の研究に必要な観測を手伝う機会があり、全く分野の違う研究であっても大変興味深い経験ができました。また、気象業務では夜中に一人で残った観測棟から時間が許す限りオーロラを眺めることができた点は思い出があります。



しらせからはじめて流水を見た瞬間や、あざらしやペンギンといった極域の環境や生き物に遭遇した瞬間は言葉で表すことができない感動があります。

南鳥島(マーカス島)勤務の経験

夜間の高層気象観測の放球のために放球場で時刻まで待機している間に、だんだん暗闇に目が慣れてくると、本州ではお目にかかれない星空を見ることがあります。そうやってみる星空は何度見ても格別でした。また、マーカスならではの乗り物に乗りたり、生き物と出会ったりと貴重な体験ができました。



みんなに伝えたい! 職場の魅力

大学時代はモデルを用いた統計解析を主にしていました。気象庁で南極の観測に参加するために様々な観測を経験しましたが、南極観測では気象庁で経験した観測以外にも大学時代の経験が大いに役に立ったと思います。また、南極から帰還して南極以外の業務においてさえ、まだまだ活用できる技術だと日々感じております。気象庁に入るための勉強だけでなく、大学で学べる経験も大切にする事で思いもよらずに役立つことがある大変魅力的な職場です!

MY SECTION & JOB 所属部署及び担当業務について

全球大気海洋研究部は、地球の大気、海洋、陸面・雪氷、大気微量成分など各要素を総合的に扱う地球システムモデル(天気予報により多くの要素を取り込んだ数値予測システムとご想像ください)の開発を通して、地球温暖化など将来気候予測と次世代の数値予測の指針を得るための研究を行っています。普段の業務内容は、地球システムモデル開発、モデル改善や温暖化影響評価のための気象・気候現象の調査・解析です。モデル開発・解析の両方でプログラミングをしている時間が多いです。学会発表や論文執筆、報道発表などの機会もあります。

JOB EPISODE 1 仕事の面白さ

この仕事は謎を突き詰めていけるところがとても面白いです。なぜこのような現象が起きるのか、どうやったら現象を予測・再現できるのか、どのような過程を取り込むとより良い予測ができるのか突き詰めていくことで、知識やスキルを高め自分を成長させることができます。国内外問わず様々な会議で様々な研究者と議論する機会があり、刺激を受けたり共同研究などに発展することもあります。

JOB EPISODE 2 やりがいを感じた瞬間

業務で大変なことは、ゴールは明確(数値予測モデルの改善など)ですが、そこに至るための方法を自分で見つけなければならぬケースが多いことです。様々な知識と経験が必要になります。そして、やりがいを感じるのも、様々な経験を通して自分のスキルアップを実感できた時です。自分が取り入れた改善によって予測モデルの性能が大きく上がった時と、温暖化した気候での強い台風に関する研究で、IPCC(気候変動政府間パネル)など国際機関のレポートで取り上げられた時は、評価を得られて嬉しかったです。



みんなに伝えたい! 職場の魅力

気象庁は気象や自然科学が好きの人には大変魅力的な職場だと思います。予報を良くするには、あるいはより早く正確に防災情報を出すにはどうしたらいいかを考えると、現象のより良い理解や最先端の計算科学が必要になってきます。そんなことに一生懸命になれる職場はなかなかないと思います。

温暖化の予測など次世代へ繋がる研究を行う



南極や南鳥島などの幅広い勤務を経験

R2.4採用 経験者採用 技術

本庁 情報基盤部 数値予報課
数値予報モデル基盤技術開発室
技術専門官

久野 龍介

KUNO RYUSUKE



H10.4採用 1種 物理

本庁 総務部 企画課
国際室長

新保 明彦

SHIMPO AKIHIKO



MY JOB 担当業務について

数値予報システムの開発において基盤となる数値解析予報実験システムの開発と維持管理を行っています。数値予報システムは非常に多くのプログラムとデータから構成される複雑なシステムです。数値予報システムの技術開発では多数の数値実験を行うことから、実験を統合的に管理し、実験の実行を効率的に行うことのできる実験システムが不可欠となっています。そのため、計算機上に実験システムを整備し、日々の維持管理と利便性向上のための改善に取り組んでいます。

JOB EPISODE 1 やりがいを感じた瞬間

複雑な数値予報システムでの開発業務にはじめは苦労しましたが、実験システムの開発業務を通じて少しずつ理解が深まり、民間企業でソフトウェア開発を行ってきた経験が活かせるようになってきたと感じています。同僚と協力しながら新しく構築した実験システムが無事に稼働し、数値予報システムの開発業務に活用された際には達成感を感じました。

CAREER CHANGE キャリアチェンジのきっかけ

大学院で気象学の研究をしていたこともあり、気象業務に関わる仕事をいつかやりたいと考えていました。前職でのソフトウェアエンジニアとしての経験も踏まえ、エンジニアとして気象業務に関わりつつ貢献できるようなキャリアを目指して転職活動を始めました。

MY REASON 入庁の決め手

気象+ソフトウェアエンジニアを軸に転職活動をしていました。気象庁は職員が内製でソフトウェアを開発する場合があると聞き、自分の経験を活かす場があると感じて経験者採用試験への応募を決めました。特に、数値予報モデルの開発を内製で行っているところに独自性と魅力を感じました。

JOB EPISODE 2 実際に働いてみて

前職では数値シミュレーションに関わるソフトウェア開発を担当していました。開発現場が必要とされる技術要素は現場によってもちろん異なりますが、ソフトウェア開発に関する基本的な知識があったため、ある程度スムーズに開発業務に着手することができたと思います。独自の技術要素については、経験豊富な先輩・同僚に相談しつつ業務に取り組むことで、後から十分に身に付けられると感じました。



国家公務員への転職を検討している方へ

地球科学分野や防災分野に経験のある方だけでなく、一般的なITエンジニアにとっても広く活躍できる場が気象庁にはあります。皆様がこれまで培ってきた経験を是非、気象庁で活かしてください。

1日のスケジュール

8:30 出勤

メールやグループウェアのチャット等をチェックし急ぎ対応が必要な案件がないか確認します。テレワークで業務を行う場合もあります。

9:00 開発業務

担当している開発案件について作業を進めます。懸念点については適宜、上司や同僚と相談・議論しながら対応します。

12:00 休憩・ランチ

昼食後は気分転換に職場周辺を散歩することもあります。

13:30 開発成果報告聴講

定期的に開発成果の報告会や勉強会が開催されており、適宜聴講して自分の担当以外の業務についても情報を収集します。

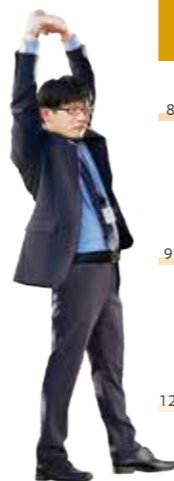
15:00 開発打合せ

開発案件について定期的に打合せの機会を持ち、進捗や問題点の共有を行っています。

16:00 開発業務

引き続き開発業務を行います。

17:15 退勤



MY SECTION 所属部署について

大気国境は無く、台風等の気象現象は国境を越えて各国に影響を与えます。このため、精度の良い天気予報とそれに基づく確かな警報・注意報の発表のためには、国際的な気象観測データの交換や技術協力が不可欠です。また、気象分野のみならず、気候や海洋、地震・津波、火山分野においても国際協力が重要です。私が所属する総務部企画課国際室は、気象庁の国際関係業務に関するとりまとめを行っており、世界気象機関(WMO)等の国際機関や外国気象機関との連絡・調整、国内の関係省庁や関係機関との調整等を通じて、我が国の気象業務の改善や国際協力の推進にあたっています。具体的には、WMO等による国際会議への対処方針や発言の作成、実際の会議対応、外国の気象機関等からの訪問依頼の受け入れや、気象庁職員の外国への派遣に関する調整などがあげられます。

JOB EPISODE 仕事のエピソード

国際室では、WMO総会や執理事会など、長官や部長のサポートとして外国出張する機会が多く得られます。外国出張では、出張者が朝昼夜と食事と一緒にとることが多く、そのような機会に長官や部長から、いろいろな話を聞くことができました。WMOの重要な役職の一つが「執理事」であり、4年に一回開催されるWMO総会で選出されます。歴代気象庁長官は、WMO執理事を務めており、WMO総会での重要な対応の一つが「気象庁長官の執理事選出の実現」です。WMO総会開催の前から、各国へのアピールが行われ、総会中も各国代表団への働きかけを行います。私が国際室長として迎えた2023年のWMO総会においても、WMO総会開催の前から総会中にかけて、各国への働きかけを行い、結果として気象庁長官はその総会でも執理事に選出されました。まさに肩の荷が下りた瞬間でした。

みんなに伝えたい！ 職場の魅力

気象庁に入るまで、気象庁の業務が世界とこれほどまでにつながっているとは思っていませんでした。国際業務は、国際会議で難しい議論、交渉に対応するというだけでなく、気象、気候、海洋、地震・津波、火山の各分野における日本の技術、知見を活かし、世界の気象等の業務の発展に貢献できるものです。そして、これらの関連業務の世界における発展は、気象庁が行う各種サービスの発展の基盤ともなります。このように、気象庁の国際業務は、世界にも日本にも貢献できる、非常に魅力的な業務であると思います。

キャリアパス

1年目

予報部 予報課
水理防災班
当時の上司と毎晩夕食を共にし、夜遅くまで解析雨量の開発に従事しました。

7年目

海外派遣(米国)
渡米時が初めての海外渡航でした。毎日英語と格闘し、特に論文作成に苦戦しました。

11年目

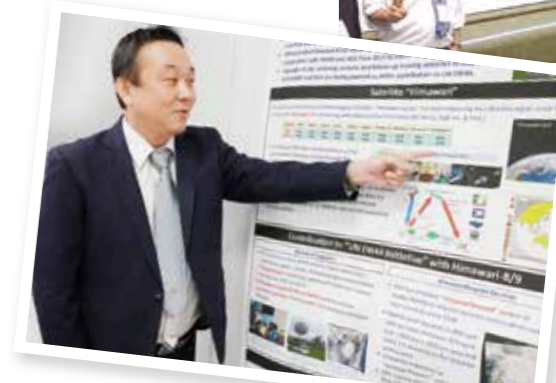
地球環境・海洋部
気候情報課 数値予報班
季節予報モデルの開発に従事。開発結果に一喜一憂しました。

14年目

総務部 企画課 国際室
「世界気象機関(WMO)総会」に出席。世界各国の代表団の前で発言し、議場の大画面に自分の大きな顔が映っていました。

21年目

地球環境・海洋部 気候情報課
異常気象情報センター
「平成30年7月豪雨及び夏の高温の要因分析」に奮闘。その後、多くの研究者の方々の協力により論文を執筆しました。



H4.4採用 | 種 電気・電子

本庁 総務部
企画課長

太原 芳彦

TAHARA YOSHIHIKO

気象庁
Japan Meteorological Agency

MY SECTION 所属部署について

日本で気象業務が始まってからまもなく150年を迎えようとしています。この長きにわたり気象庁は、気象情報を休み無く提供してきました。その間、気象庁は、最新の地球物理学を貪欲に取り入れるだけでなく、測器や情報通信の最新技術を取り入れ、また変化する社会のニーズを捉えながら提供する情報を高度化してきました。また近年では、気象情報が防災の現場でしっかりと活用されるよう、地域を預かる自治体との連携を積極的に行うことを始めました。私が所属する企画課は、さらに社会へ貢献するため、将来の気象庁が進むべき道を企画・立案する部署です。

JOB EPISODE 仕事のエピソード

気象の観測や予測といった情報提供の裏側では、様々な部署の職員が連携して「システム」を作り上げ運用しています。例えば、全国に約1,300か所あるアメダスの運用のためには、しっかりとした性能を持つ気象測器を導入し、暴風にも耐えるように設置し、その測器や露場を定期的に点検し、ネットワークで全国を接続して中央のコンピュータへ収集し、常にデータに問題が無いか品質管理を行い、利用者向けの形式に情報を編集し提供します。この中で1か所でも問題が生じると情報提供がストップします。責任ある仕事です。私もこれまでの勤務で様々な障害に出会い対応してきましたが、回復したときはなんとも言えない達成感を感じていました。

これまでの道のり

1年目

高松地方気象台・観測課と予報課

気象のイロハを、高松地方気象台での3年間の勤務で学びました。夜間の目視観測では、上層の雲は見えないため、気象衛星画像で予習しつつ、星の見え具合から雲の種類や雲量を推測していました。高層天気図の読み方や解析もここで学びました。

4年目 予報部・数値予報課・係員

スパコンを使った数値予報の開発に従事し、趣味であったコンピュータ計算が業務となりました。気象予測の先端技術にも関わることができ、とてもやりがいのある業務でした。先端技術を追い求めるため国際協力も必要となり、海外へ出張する機会も得ました。語学が苦手な私が、様々な知見と考え方を持つ人との意見交換は、貴重な機会となりました。

7年目

国際派遣

2年間、米国で数値予報を得ました。新しい技術のく、仕事の進め方・文化・システムが大きく異なる世になりました。また、自主性や、様々な人種の間で、居心地の良さを覚えました。

開発する機会を得ただけでなく、社会シチュエーションを体験できない貴重な機会を得ました。失敗が許されない業務であるため、責任の重さを感じました。

気象庁で働く魅力

私は、大学で電気工学を専攻したため、気象や地球物理の専門知識を知らずに気象庁へ入庁しました。このような私でも、30年以上にわたり気象庁の業務に従事することができたのは、気象庁はしっかりとした研修システムを持っていること、組織立って業務を遂行する環境があることが助けになったと考えています。気象庁が所掌する業務はとても幅広く、入庁前の皆さんが知らないことは当たり前です。また社会や技術の変化に伴い、気象庁の業務も絶えず変わっています。是非、気象庁に入庁し、業務を学びつつ自分の興味・適性を考えながらチャレンジしてください。



17年目

観測部・気象衛星課・運用管理班長

気象庁は気象衛星「ひまわり」を長年運用してきましたが、後から修理ができない衛星を打ち上げ運用するためには、事前の計画作りがとても重要になります。気象衛星課では、その計画作りと予算の確保に係る業務に従事しました。失敗が許されない業務であるため、責任の重さを感じました。

25年目

予報部・業務課 気象防災情報調整室長

近年、気象庁は防災官庁としての役割が大きくなっており、大きな自然災害に際しては迅速な情報発信が求められます。職場近くの危機管理宿舎に住みながら、突発事象が発生した際には、夜間や休日関係なく対応しました。この業務を通じて、近年、災害が激甚化していることを実感しました。



26年目

総務部・国際室長

世界の良質な観測データ入手するためには、世界気象機関(WMO)を通じた活動や途上国支援が重要となります。また、日本の気象業務を世界の最先端に維持するためには、先進国との技術協力が重要です。気象庁は様々な国際業務を行っており、国際室はその元締めです。WMO事務局長や各国の気象局長官と交流する貴重な機会を得ました。

H27.4採用 一般職(大卒) 行政

沖縄気象台 会計課
出納係長

神里 桃子

KAMIZATO MOMOKO

気象庁にも行政職があることを知り、採用の際に求められていることは、気象の知識ではなく協調性や積極性だと感じ、入庁を決めました。

MY JOB 担当業務について

出納業務を担当しており、支出、歳入徴収の事務手続きや会計検査院へ報告する各種計算書の作成、国土交通大臣に提出する決算報告書の作成をしています。法律や規則などにに基づき業務を進め、会計経理の正確性が求められます。また、旅費支給業務も行っており、旅費精算が不慣れな職員へは法規やシステム操作などの細やかな説明をして職員の事務作業のサポートを行います。

JOB EPISODE やりがいを感じた瞬間

管財係での工事積算は大変苦労しました。空港滑走路側に設置してある気象観測機器の更新の際には、ケーブル敷設や基礎を新設する工事の積算業務を行い、見慣れない工事図面からケーブル長や細かい作業を読み取るため図面や資料にらめっこをし、不明点があれば専門業者や担当課へ質問をしてひとつひとつ解決していきました。無事工事が完了し図面通りの完成品を確認した際は、達成感がありました。

MY CHALLENGE 今後の目標

会計業務では技術系職員と連携して業務を進めるため、事務の知識だけでなく基本的な気象業務や観測機器の知識も必要になる場面がよくあります。気象業務に関連する契約で問題が発生した場合は、気象業務の基礎知識を理解した上で事務手続きの側面から解決策を検討していきます。経験や知識を積み重ね、技術系職員を手助けできる職員となるのが今後の目標です。



みんなに伝えたい!
職場の魅力

本人の希望もありますが1~3年程度で係異動があり幅広く業務に携わることができます。初めての業務でも周りに同僚や先輩職員がいて相談できる環境となっていますので安心してください。様々な業務に携わることで、積み重ねた知識や経験は、周りの職員を助け、自分のレベルアップを感じることができ、やりがいを感じて職務に取り組めると感じています。

キャリアパス

1年目

沖縄気象台
会計課 第一契約係

4月の入庁と同時に繁忙期に突入。忙しい中でも上司や先輩職員から丁寧に仕事を教えていただき、業務を遂行することができました。

2年目

沖縄気象台
会計課 管財係

工事積算では見慣れない設計図面を読み解くことに苦労しました。

5年目

南大東島
地方気象台
業務係



小さな離島の生活は、今までの暮らしから一変しましたが、住めば都となりスローライフを満喫しました。

8年目

沖縄気象台
会計課 出納係

係長職となり部下ができ責任感が増しました。後輩には、丁寧な指導を心がけています。

H15.10採用 II種 行政

本庁 総務部 人事課
恩賞係長

川畑 康征

KAWAHATA KOUSEI

MY SECTION 所属部署について

人事課では、職員の採用、研修、給与、表彰、定員、福利厚生などの業務を担当しています。これらの業務を通じて、全国に勤務する気象庁職員の人事管理を日々行っており、国民の生命・財産を守る防災気象情報の発表や地域における防災対応支援をはじめ、多岐にわたる気象業務を支えています。

MY JOB 担当業務について

人事課の業務の一つに、気象業務に貢献した者の表彰に関する事務があり、表彰の選考や式典(表彰式)の実施等に携わっています。部外の者だけでなく、気象庁職員も表彰の対象としており、業務において顕著な功績を残した気象庁職員に対し、気象記念日(6月1日)に気象庁長官から表彰状を授与しています。自身の行った行為が適切に評価されたり、何かの役に立っていると感じたら、誰しもが嬉しい気持ちになるはずです。気象庁では、気象業務への貢献を適切に評価、表彰する制度があり、この制度を通じて、顕著な功績を残した者に感謝の意を伝えることは、健全な気象業務の発達に寄与するものであり、意義のあることだと感じています。当該制度の運用に携われていることに、日々やりがいを感じて仕事に邁進しています。

JOB EPISODE 仕事のエピソード

東京管区気象台で給与事務を担当した後、国会連絡室へ出向し、国会対応に携わることとなりましたが、畑違いの仕事に最初は戸惑ったことを記憶しています。国会という独特な環境への適応にも苦労しましたが、同じ状況に置かれた多くの同僚と、共に切磋琢磨することで、徐々に慣れることができました。もう10年以上前の話ですが、今でも当時の同僚とは交流が続いており、他の職場では得られない貴重な経験ができたと感じています。

FIELD OF STUDY 学生時代の専攻

大学では経済学部を選択しました。高校の授業で経済学を学んで興味を持ったことがきっかけになりますが、私たちが日常的に行っている経済活動という、身近なテーマを学ぶことに魅力を感じました。大学の講義で、先生が「どんな難しい学問でも、中学生が聞いて理解できる説明をしないとダメだ。」という趣旨のことを仰ったことが、今でも記憶に残っており、誰かに事案を説明する際には、そのことを常に心掛けるようにしています。

職場の雰囲気

ざっくばらんに何事も相談できる環境ですし、ワークライフバランスへの理解も進んでいると感じています。絶賛子育て中ですが、日頃から上司、部下との情報共有を行っており、急な休暇の取得にも対応いただけるなど、仕事と子育てを両立する上で困ったことはありません。



会計業務で気象庁を裏から支える

R4.4採用 一般職(高卒) 技術

高知地方気象台
一般職員

桃田 萌

MOMOTA MOE

高卒区分での採用に不安もありましたが、高卒区分の研修を受講し、自分のペースで理解を深めながら知識と技術の習得が行えており安心していきます！

MY JOB 担当業務について

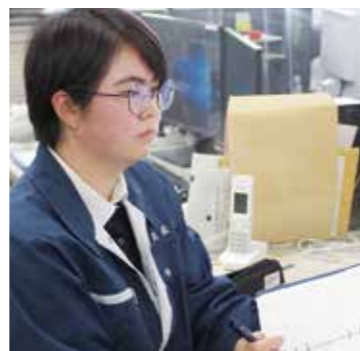
観測予報管理官室に所属しており、観測・予報に関する業務を行っています。日々の天気予報や警報・注意報など防災気象情報の発表を行う予報官の補助として、観測データの確認、気象実況の監視や天気図の解析、部外からの電話対応などを行う現業業務が主な仕事です。現業業務以外では、社会・経済活動においても重要となっている正確な観測データを安定して提供できるよう、定期的な観測施設的环境整備や機器の点検も担当しています。また、地域の防災力向上を目的とした打ち合わせやイベントに係ることで、気象や地震に関する知識の普及啓発活動にも取り組んでいます。

JOB EPISODE 仕事のエピソード

習熟期間を経て、はじめて自分の手で作成・発表した防災気象情報がホームページに掲載されたり、ニュース等で取り上げられたりしているのを見たときは、多くの人の目に触れ、防災対応に役立つ情報を発信することができたと感じ、嬉しかったです。これから防災気象情報を作成する機会も増えてくると思いますが、正確に、また分かりやすく伝えられるよう心がけていきます。

MY REASON 入庁の決め手

気象を専門として学んだ経験はありませんでしたが、通学時に感じた気象への興味とともに、近年激化する大雨や台風などの災害について見聞きしたり、近い将来に南海トラフ地震が発生する可能性が高いと言われたりしている中で、防災気象情報を迅速に発表したり、また、わかりやすく正確に伝えることで、故郷を守ることに貢献したいと考えました。



CROSS TALK 対談02

「ベテラン職員が語る 気象庁で働く魅力」

気象庁は日本全国に70近くの官署を置いており、各地の職員たちは多種多様な業務に取り組んでいます。ここでは勤務地も担当業務も異なるベテラン職員4名が集まってもらい、日々の仕事について話を聞きました。

Simoji Kazuki
下地 和希
気象衛星センター
データ処理部
解析課 調査官

気象衛星「ひまわり」
の観測データを
世界各国へ
配信しています

Tomoyose Nagisa
友寄 浩
沖縄気象台
総務課 調査官

職員の声や要望を
拾い上げ、
働く環境を整える
大切な仕事です

Machigashira Daisuke
町頭 大輔
本庁 地震火山部
地震津波監視課
地震津波防災推進室
情報管理係長

緊急地震速報の
利用促進のため、
日々啓発活動に
動んでいます

Nomura Tatsuro
野村 達郎
新千歳航空測候所
予報官

航空機の
安全運航のために、
精度の高い予報の提供
を心がけています

「やりたいと思う気持ちに応える職場」

今回は気象庁で20年以上働いている皆さんにお話を伺います。まず、日頃の業務内容について教えてください。

下地: 東京にある気象衛星センターのデータ処理部に働いています。同センターでは静止気象衛星「ひまわり8号・9号」を運用しており、衛星から届く様々なデータから天気予報に役立つ気象データを推定し、大気観測データとして気象庁や諸外国の数値予報センターへ配信しています。それらは数値予報システムへの入力として利用され、世界中の天気予報の改善に貢献しています。その中で衛星のデータから風の状態を推定し、海外を含めた関係先へ送るのが私の仕事。衛星画像・動画に映る雲の高さや速度から、どの高度でどれくらいの風が吹いているかを解析します。また風のデータを得るための開発や調査、プログラムを書くことが中心的な業務です。ひまわりから絶え間なく届くデータを処理

するのは計算機ですので、必要なプログラムを自分で書いて安定した運用に努めています。この業務に就いて約18年。

入庁後は札幌管区気象台で2年間勤務し、以来、衛星の仕事を担当しています。

友寄: 私は沖縄県出身で、長年沖縄気象台で働いています。総務課に所属しており、1年前から現在の業務に就いています。主な仕事は職員団体に関する労務対応、職員に貸与する宿舍業務、職員の苦情相談や処理とハラスメント防止に関する事務です。労務対応は、職員団体からの交渉の申し入れなどについて要点も要求内容の論点整理と確認を行い、職員団体に対する回答や説明対応の準備・調整を行います。宿舍業務は、他の管区や沖縄の離島官署から沖縄本島へ赴任してくる職員が住む宿舍の戸数調整、職員の入退去に関わる手続きを行い、通勤エリアなども考慮して職場に近い宿舍を提供できるよう

に心掛けています。苦情相談業務では勤務条件や人事管理、嫌がらせやハラスメントのような悩みの解消に応じており、日頃からそういった事案が発生しないように相談体制を整えたり、研修教材の提供を行い、ハラスメント防止の周知・啓発の取り組みを行ったりしています。この1年取り組んでみて苦情相談件数があるわけではありませんが、日頃から職員の皆さんの様子に目配りをして、環境を整えていくことが大事なことだと考えています。

野村: 私は友寄さんがいる沖縄とは気候も地形も異なる北海道千歳市で、新千歳航空測候所の予報業務を担当しています。過去には下地さんと一緒に札幌管区気象台、旭川や釧路、室蘭の地方気象台、帯広測候所等で一般利用者向けの予報に関わり、1年前から現在の業務です。ここでの担当は、航空機の安全運行のために飛行場とその周辺9km以内の風や視程(見通し)、雲の量と高さ



高卒区分での採用を経て予報業務を行う

気象庁では 一般職 高卒程度 技術系 の採用も行っています

高卒採用について

高卒(技術)からの採用は令和4年度から開始し、これまでも気象庁全体で数十名の職員が活躍しています。原則としてまず地方気象台に配属となり、そこで主に観測や予報の現場や地域防災業務等を経験し、その後は能力・実績の評価等を踏まえ異動を行っていきます。なお、仮に入庁時に気象に関する知識が無かったとしても、各職場におけるOJT等や各種研修(※)により学んでいくことができます。(※)まず採用1年目に、気象業務を遂行するために必要な基礎的知識の修得を図るための研修(採用初年度の全職員対象)や、地域防災業務をより円滑に遂行するために必要な知識(学力)を修得するための研修(高卒採用者を対象)があります。

などを30時間先まで予測して、1日4回発表（6時間ごと）することです。「運航用飛行場予報（TAF）」と呼ばれるこの情報は、空港の施設管理者、航空会社やパイロットといった運航に関わる人々に提供され、今まさに離着陸しようとしている航空機のために利用されます。TAFの利用者は限定的、かつ専門的。風は飛行機の離発着に大きく影響しますから、予報が外れた時はかなり厳しい言葉をいただきます。だからこそ緊張感もあり、やりがいもある業務ですね。

町頭：本庁の地震火山部に置かれている地震津波防災推進室で働いています。ここでは気象庁が発表する地震や津波に関する様々な情報を国民の皆さんに活用してもらうための啓発・宣伝活動、その計画立案を行っています。また、大きな地震などが発生した時に気象庁が行う記者会見の報道発表資料を作成する部署でもあります。私が普段担当しているのは緊急地震速報の普及啓発業務です。例えば、緊急地震速報の仕組みや見聞きした時に取るべき行動などをリーフレットや講演を通じて国民の皆さんにお伝えしたり、事業者向けの活動では、いざという時に緊急地震速報をエレベーター停止や機器の制御に役立ててもらうための啓発を行ったりしています。緊急地震速報そのものは社会の中でかなり認識されていると思いますが、実際に見聞きした時に必要な行動という点に関しては十分に浸透しておらず、そこをしっかり伝えることを重視しながら進めています。



地震火山部には10年ほど所属しており、地震の24時間監視やシステム等の担当を経て、2年前から現在の業務をしています。

どんな業務にも苦労はつきものだと思いますが、日々の仕事の中でどんな時にやりがいを感じているのでしょうか？

野村：予報を外してしまった時は色々大変な思いをします。風向きが少し変わるだけでも飛行に影響するんですね。そんな時はユーザーに対して申し訳ない気持ちになりますし、予報精度の評価を悪化させてしまうことになります。ですから同僚や上司とも協力して外した原因の究明や対策をまとめておき、次回同じような気圧配置になった場合に活用して、うまく予報を適中させることができた時には大きな達成感を感じます。

それと並行して過去の顕著な気象現象の調査研究を行い、新しい予測手法の開発も進めています。自分の研究したことが実際の仕事に還元できて、予報精度が上がっていくことについては非常にやりがいを感じます。

町頭：緊急地震速報の精度には限界もありますので、外れてしまう時や間に合わない時もあります。緊急地震速報の提供が始まってから15年以上が経ちますが、比較的地震の少ない地域では緊急地震速報そのものをあまり経験していない方もいらっしゃると思います。そのため緊急地震速報を見聞きした時の行動を覚えていただくために全国訓練を毎年実施しています。そこでアンケートを取ると「実際にどんな音が鳴るのがわかりました」「鳴ったら次は何をすればいいのかわかりました」といった感想をいただくので、情報が確かに届いているのかなと思える瞬間でもあります。正解がなかなか見えない仕事ゆえ手探りで取り組むことも多いですが、大きな災害が起きた時に私たちが発信してきた情報が広く活用されているのを見ると、大きなやりがいというか、必要とされる仕事なのだなと感じます。

友寄：私の仕事ですと、職場環境や勤務体制

に関して職員の皆さんが抱える悩みを上司や上部機関に伝えることで少しでも環境が改善されて、皆さんが働きやすくなることにはやりがいを感じます。現場で働いている職員の勤務環境は様々なので、私たち事務系の職員が気づいていないことが要望として届くこともあります。それら全てが改善されることは難しくとも、届いた声や話を聞くことで伝えてくれた人の心が少し軽くなったり、働きやすくなったりするのなら少しは役に立てたのかなと思います。

下地：気象衛星「ひまわり」はアジア太平洋の広大な地域を観測していて、そこから推定した広い領域の風のデータを日々諸外国にも送っているわけですが、色々な天気予報を見るたびに自分の作ったデータが実際に使われて役に立っているのだなと実感しています。

気象庁の仕事は多岐にわたっており、勤務地も全国各地にあります。このような業務や勤務地の選択肢の多さについてはどんな魅力を感じているのでしょうか？

町頭：自分の経験から考えると、希望すれば色々な土地で働けて、気象・地震火山・空港など様々な分野の仕事に挑戦できることは、他にはないメリットだと感じています。私自身、富山地方気象台、今はなくなってしまった八丈島測候所、羽田空港の東京航空地方気象台、南鳥島気象観測所を含む本庁と転々としてきましたが、もともと地方勤務にも興味がありましたので、その結果として様々な経験をさせてもらうことができました。業務内容にも同じことが言えますが、気象庁はやってみたいことを希望すれば、やれるチャンスがいくらでもある環境だと思います。

野村：そうですね。私は20年間、北海道で勤務しており、いくつかの地方気象台、測候所を経験しました。例えば、旭川や室蘭は頻繁に大雨が降る地域なので、メカニズムの解明や予測手法の改良などに注力しました。一方、釧路や帯広は担当エリアが広大で、アメダスの保守点検は長距離の移動で一苦勞でした（笑）



—— 衛星業務は専門性が高く同業者も少ない。海外のワークショップは情報交換の貴重な場です



—— 予報精度を上げていくために、日々改善できることに取り組むよう心がけています

「様々な制度が整い、安心して働ける」 「職員同士、助け合いの精神が強い」

それぞれに特徴があって、各地で経験した業務は”生きた知識”として今の仕事にも役立っています。

友寄：事務官はどの部署、どの官署に行っても似たような業務を行っているの、現場にいる職員の皆さんからしてみると何か変化があるように見えなくてもいいかもしれませんが、私たちの仕事も細かく担当が分かれています。会計課、総務課と事務系業務のほとんどを経験してきましたが、1年から2年程度の短いスパンで幅広く経験できるというのは知識が増えて勉強にもなりますし、様々な制度のことがわかるようになると業務はもちろんのこと、自分の生活でも役立てることが出来ますので、そういう面でもありがたいですね。

最後にお願いします。長年勤務してみて、皆さんが実感している気象庁のいいところ、おすすめポイントを教えてください。

下地：気象庁は技術官庁ですから、業務上の課題を自分たちが持っている技術で解決、改善していこうという気概が職員にあるのがいいですね。私の所属する衛星の部署も外部へ丸投げすることは少なく、自分たちでプログラムを書いています。プログラムの完成度を上げていく作業にはそれなりの苦勞も伴いますが、苦勞の分だけ安定したプログラムを作ることが出来ますし、結果的に問題も起

りにくくなりますから、取り組みがよいのある仕事だと思います。

友寄：事務系の仕事は細かく担当分野が分かれており、個々のやり方で柔軟に仕事を進めることができます。必要に応じてミーティングを開いたり、何か問題が生じた時には上司に相談したりしますが、そんな時も意見を言ったりアドバイスをもらいやすい職場環境であるのがいいですね。職員間のコミュニケーションも活発で明るい雰囲気職場です。職員の事情に応じてフレックスタイムやテレワークを選択できますし、子育てや介護などで急な休暇が必要な時でも目的に応じた休暇を利用できます。私も何度か育児休業を取ったり、子どもの病気で休みを取ったりしましたが、現在はさらに制度が良くなっているので、自分に合った働き方がしやすいと思います。

野村：私はこの20年のほとんどを現業勤務、つまり日勤・夜勤・夜勤明けという交替制勤務をしています。北海道にはそういう部署が多いからなのか非常に助け合いの精神が強いんですね。例えば、学校の運動会が近づくと皆さんが「いつ運動会なの？」と聞いてくれて勤務交代をさせてもらえたり。安心して働くことができています。あとは、育児休業やテレワーク、結婚休暇などライフワークに合わせた



制度が揃っているのもいいですね。おかげで私も妻の出産に立ち会うことができました。友寄さんも先ほど仰っていたように、育児休業に関しては男性も積極的に取得して、そういう点ではかなり働きやすいと言えます。

町頭：同僚や上司と距離が近くて相談しやすい職場環境だと思います。土地勘のない地域での勤務の場合は、同僚が一番の友人といいますが、仕事もプライベートも共有できる仲間もありますので、オフには食事やスポーツを一緒に楽しむことができたのもいい思い出です。その地域だからこそ体験できること、学べることが色々あるので、希望を出せばそういうチャンスにも飛び込めることが、職場としての気象庁が持つ魅力だと思います。



「自分たちの技術で解決する気概がある」



—— 正解の見えない仕事ではありますが、今後も緊急地震速報の普及啓発に努めたいです

町頭



—— 聞く力が求められる仕事ですので、相手の心が少しでも軽くなってくれたら嬉しいですね

友寄

Q&A 気象庁のことを知ろう

就職する上で聞きたいけど聞けない、そんなちょっとしたことをここでは職員へのアンケート結果も交えてお答えします。

＼ 私たちがお答えします！ ＼



Q どんな時、気象庁で働いていると実感しますか？

- A
- 気象災害が発生した際に、JETT派遣などで自治体をサポートした時に実感しました。
 - 日々の気象情報を見ていて、「今日の解説はあの情報を参考にしているな。」とニュースの裏側にある情報を意識した時や、気象庁が発表する情報が報道されているのを目にすると、気象庁で働いている実感が湧きました。
 - 気象災害の危険性について改めて理解し、普段の業務が人々の命を守る責任のある仕事だと実感しました。
- (採用2~3年目の職員の声より)



Q 仕事をするうえで心がけていることを教えてください

- A
- 広報を担当しているため、一般の方にもわかりやすいように業務内容を噛み砕いて表現すること。
 - 観測において、データの小さな変化を見逃さないよう、注意深く観察すること。緊急作業時に混乱せずにスムーズに作業が行えるように日ごろから練習やマニュアルの確認を行うこと。
 - 様々な機会に参加し、いろいろな人と関わりを持つこと。理由はたくさんつながりがあると、困った際も相談ができ業務に取り組みやすくなり、仕事が楽しくなります。
- (採用2~3年目の職員の声より)



Q 職場の雰囲気を一言でいうと？

- A
- 和気あいあいな雰囲気、同期や先輩だけでなく、上の役職の方にも相談しやすく、仕事のことでなく、プライベートのことも相談に乗ってもらえます。
 - まじめな人が多く、メリハリがはっきりしている雰囲気です。普段はゆったりしていますが、警報発令時などはピリッとした空気で背筋が伸びます。
 - 寡黙な部署も賑やかな部署も両方ある。ただ、寡黙な部署は陰険な雰囲気、賑やかな部署は過度に"キラキラ"した雰囲気というわけではなく、どちらも仕事しやすい雰囲気です。
- (採用2~3年目の職員の声より)



Q 配属や部署は希望できますか？

- A
- 気象庁には、全国各地に気象官署が設置されていて、様々な業務を経験いただくため、転勤を伴う人事異動も行っています。異動の目安は、概ね2年~3年(転勤を伴わない内部異動を含む)です。なお、異動は基本的に管区・沖縄気象台の各ブロック単位で行われ、また人事異動の計画を立てる際は事前に本人の希望や家庭事情等を踏まえながら行うようにしています。



Q 入庁に際し必要な知識やあった方が良い資格はありますか？

- A
- 英語や情報システム、気象予報士等の資格やスキルがあると配属先を決める際に参考にすることがありますが、例え気象学を学んでいなくても、入庁後に研修を受けることにより、必要な知識やスキルを学ぶことができます。



Q 本庁・管区気象台・地方気象台での業務内容の違いについて教えてください

- A
- 気象庁本庁には1,600人程度の職員が在籍し、主に気象業務に関する政策の企画や立案をしたり、庁内や他省庁、国際機関等との総合調整を行ったりしています。管区・沖縄気象台や地方気象台には3,000人程度の職員が在籍し、主に管内の気象や地震・火山等の観測、予報等の現場業務や地域防災に関する業務に従事しています。



Q 女性職員の割合はどのくらい？女性が働く環境は整っていますか？

- A
- 全国で約600人(令和5年4月現在)の女性職員が在籍していて、気象庁全体の職員に占める割合は約12%です。なお、採用時における女性職員の割合が増えてきていることもあり、その割合は一貫して増えてきています。また、それに伴い女性職員の幹部登用も進んできています。育児や介護等に伴い転勤が難しい職員については、能力・実績の評価等を踏まえながら転居を伴わない内部異動や昇任を行うなど、弾力的かつ柔軟な人事異動に努める一方で、ライフイベントに応じて転勤できる環境を整えるようにしています。



Q 大学卒と院卒の待遇の違いはありますか？

- A
- 大学卒と院卒では初任給の決定の際に違いが出てくることはありますが、キャリアパスの差は設けていません。



Q 研修について教えてください

- A
- 国家公務員としての一般知識を習得するための初任職員研修をはじめとし、採用区分・役職等に応じた様々な研修が用意されています。詳しくは、[p.41](#)へ！



職員へのアンケート 気象庁に入庁してからの印象

気象庁で働く採用2~3年の若手職員に、実際に働いてみてどう感じているか聞いてみました。
リアルな声をお届けします！

Question 01 気象庁への志望動機を教えてください

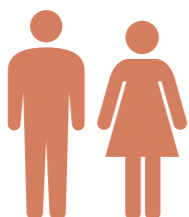
離れた場所に住む友人や家族の生活を守る仕事があったから。

天気・防災は、どんな人にも関係することなので多くの人に役に立つ仕事があったから。

大学時代の専門分野に近い仕事、かつ、安定した仕事に就きたかったから。

子供のころから好きだった気象の仕事に携わりたく、日本の気象業務の根幹を担っている気象庁で働きたいと思った。

学生時代に顕著な大雨事例に遭遇し大変な思いをした経験があったため、そういう人たちの力になる仕事につければと考えたから。



小学生の頃からの夢だったため etc.....

「気象に興味がある」、「人を助ける仕事をしたい」、「公務員になりたい」など様々な理由が挙げられました。多くに共通しているのが、「**気象や自然が好き**なこと」。気象庁には「好き」を仕事にしている人がたくさんいます！

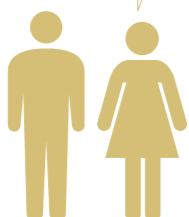


Question 02 気象庁に入庁してから感じたギャップは？

堅すぎる人が少なく、皆さんフレンドリーに接して下さることです。

現業夜勤について、入庁前は連続した夜勤に対応できるか心配が大きかったが基本の当番では連続した夜勤は無く生活リズムが大きく崩れることは無かったので安心しました。

入庁前から、気象に限らず、地震火山や海洋など様々な科学分野の仕事があるイメージでしたが、入庁してみたら、科学だけに限らず、防災・情報技術・通信など想像以上に仕事の幅が広く驚きました。



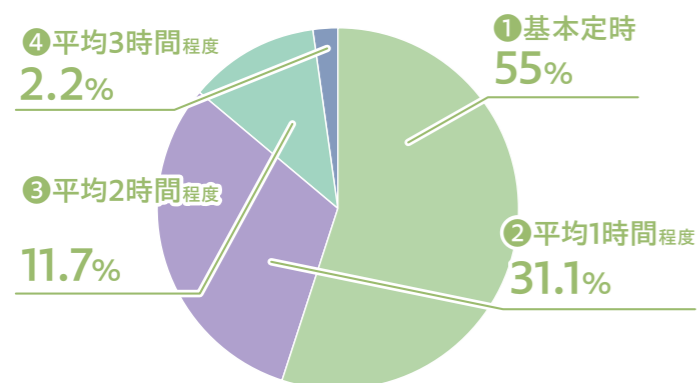
外部関係機関とコミュニケーションをとることが意外と多くやりがいを感じました。

etc.....

気象庁で実施している採用イベントに参加すると、よりリアルな気象庁を感じる事が出来るかもしれません。是非足を運んでみてください！



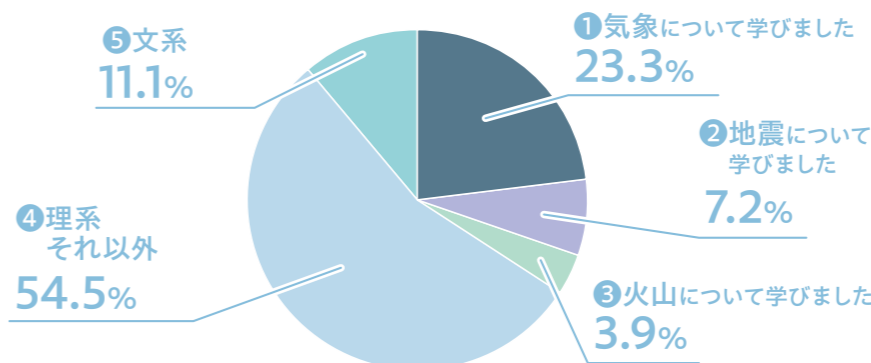
Question 03 残業時間はどれくらいですか？



退庁後の過ごし方を聞きました！

- 家でのんびり過ごしています
- 週2運動、金曜は同僚と飲み会！
- 趣味の時間は必ず取るようにしています
- 職場の先輩や同期と晩ごはんに行ったりします

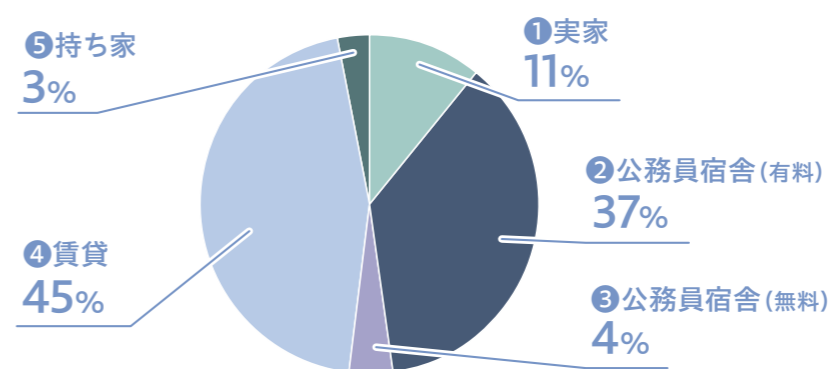
Question 04 学生時代に気象・地震・火山について学んでいましたか？



気象・地震・火山について学んだ人は34%と意外な結果になりました。専門分野が違う事へ不安を感じている方も安心して大丈夫ですよ！



Question 05 現在の居住タイプは？



賃貸が一番多い結果となりました。住居手当を利用して、好きなところに住む職員が多いんですね。



Question 06 筆記試験や面接前にやった方がいいことを教えてください

気象庁の仕事について、パンフレットやHPで確認して、自分だったらどんな仕事したいかイメージを膨らませておく。

仕事でもいえますが、事前準備は念入りに。何でもそうですが本番は限られた時間しかないためその場であたふたしてはいられません。準備したこと以上の結果は出ないので、万全を期して臨みましょう！

筆記試験は今までの努力を信じること。面接はありのままの自分を見せることです。

今までやってきたことを自分の言葉で書くことです。



etc.....

過去問題を解いたり、面接練習をしたり、色々な対策をしていました。「思いを自分の言葉で話せるように」と書いていた人が多かったです。



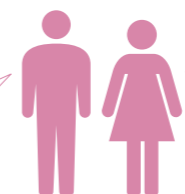
Question 07 未来の同僚へメッセージ

日々の仕事が毎日のようにニュースに取り上げられる、大変でありながらもとてもやりがいのある職場です！

仕事では本当に常に気象のことを考えているため、気象のことが大好きな人にはとてもいい職場だと思います！

気象庁の仕事はみなさんが思っている以上に幅広く、奥深いです。そして活躍できるフィールドもたくさんあります。

ひと言でいうと、「フレンドリー」。とても風通しが良く、皆様丁寧に親切に教えてくださって、過ごしやすいです。休憩時には雑談をすることもあります。



etc.....

気象庁職員はみんな自分の仕事に真剣に向き合っていて働いています。気象庁職員一同、あなたと働ける日を楽しみにしています！



気象庁の働く環境

給与・福利厚生

給与及び各種手当

初任給（一般職・総合職の例）
166,600円～224,100円
※採用区分等に応じて異なります。（R6.4現在）

各種手当
 給与の他に各種手当が支給される場合があります。
 ●本府省業務調整手当 ●夜勤手当
 ●地域手当 ●超過勤務手当
 ●住居手当
 ●通勤手当 など

賞与
 給与の他に期末・勤勉手当が支給されます。
支給月 6月・12月

共済組合 気象庁の職員となった日から自動的に組合員となり、共済組合が行っている各種の給付や福祉事業などを受けることができます。

組合員証（健康保険証）	共済貸付	各種給付	その他
病院などで治療を受ける場合に、その病院などへ提示すると、医療費の7割を共済組合が負担します（自己負担の割合：3割）	資金を必要とする場合などに、その用途に応じて貸付けを借り受けることができます（結婚、住宅など）	●出産費 ●育児休業手当金 ●傷病手当金 など	●共済貯金 ●厚生年金 など

休暇等

年次休暇	特別休暇	育児休業等
毎年 20日 ●前年からの繰り越し最大20日 ●4月採用の場合、その年は15日	●夏季休暇（連続する3日） ●出産休暇 ●産前産後休暇 ●子の看護休暇 ●忌引き など	育児休業は、最大で子が3歳に達する日まで取得することができます。また、小学校就学前の子を養育するため、通常勤務（フルタイム）より短い勤務時間で勤務することも可能です。

その他

宿舍	退職手当	赴任旅費
独身者向け及び世帯向けがあり、宿舍の貸与が承認された場合に入居することができます。	原則として6月以上勤務した場合に、国家公務員退職手当法に基づき支給されます。	採用時及び勤務地が異なる異動をする際に、「国家公務員等の旅費に関する法律」に基づいて支給されます。

勤務時間

一般事務の勤務時間 **8:30～17:15の週38時間45分勤務**

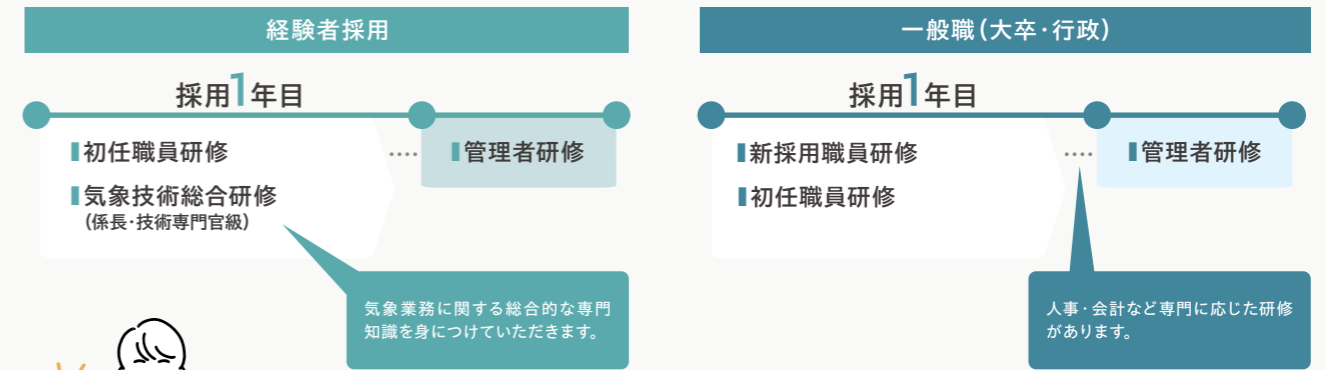
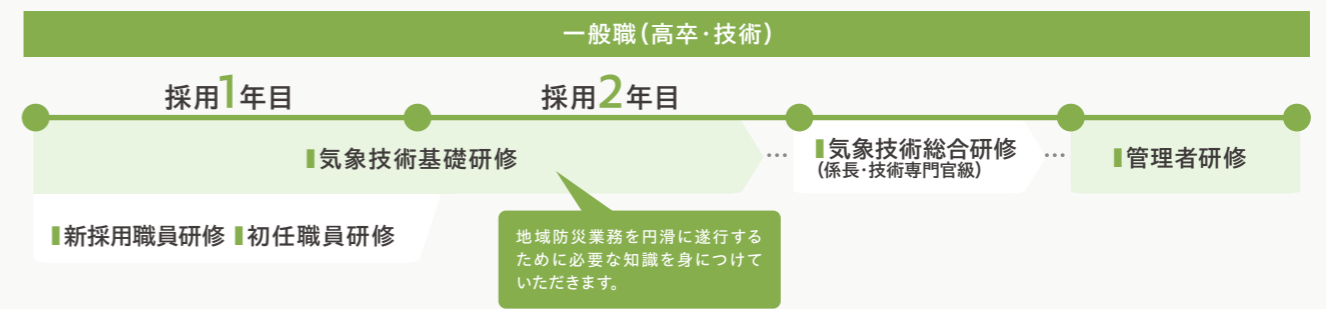
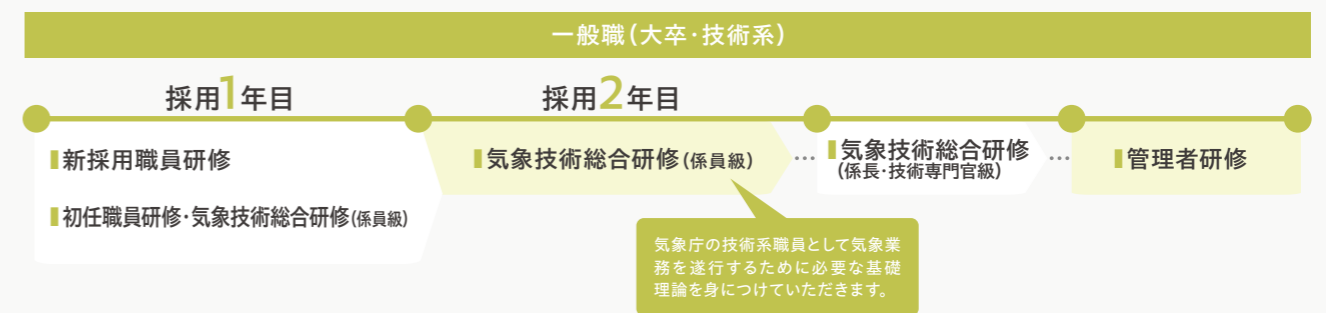
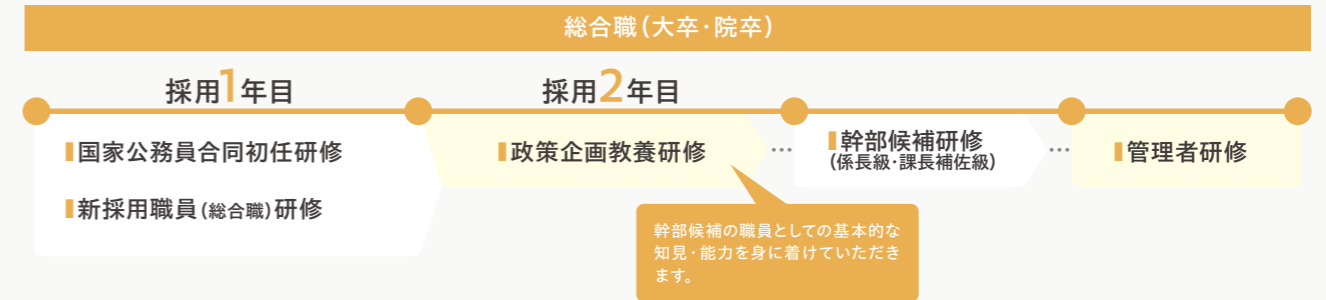
ただし、東京などの大都市においては、時差出勤を行っています。また、観測などの現場に勤務する者の勤務時間は、深夜勤務を含む交替制勤務を行っており、土、日も勤務しますが、それに相当する休みが1週間に2日の割合で与えられます。

交替制勤務の周期

1	2	3	4	5	...
日勤	夜勤	公休	公休		

日勤、夜勤（夕方から翌朝まで）及び公休（交替制勤務以外の職員の土・日曜日に相当する休みの日）を繰り返しながら業務を行います。基本的な勤務周期は図の通りですが、年間の公休の数や夏休みなどにより、この形とは異なる勤務期となることも多々あります。なお、年間の公休の日数及び勤務時間は決められておりますので、月によってばらつきはありますが、年間では人によって差が生じることはありません。

研修制度（人材育成）



他にも様々な役職や専門に応じた研修を受講できます！

- 予報業務研修
- 火山業務研修
- 地域防災支援業務研修
- 情報管理研修
- セキュリティ・IT人材育成研修
- モデル開発者特別研修
- 語学（英会話）研修
- レーダー保守研修
- など

大学生の方へ

国家公務員採用総合職 (院卒者・大卒程度)

この試験区分からの採用者は、気象庁の幹部候補として、気象業務に関する政策の企画や立案をしたり、庁内や他省庁、国際機関等との総合調整等の業務に携わりながら気象庁の中核を担っていきます。また、本人の能力や希望に応じて技術開発分野に進む職員もいます。

採用官署 気象庁本庁

総務部企画課

情報基盤部

大気海洋部

地震火山部

これまでの採用実績

各年度別採用数	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
工学	1 (0) 名	2 (1) 名	1 (1) 名	2 (1) 名	3 (0) 名
数理学・物理・地球科学	10 (5) 名	7 (0) 名	11 (1) 名	7 (0) 名	7 (3) 名

()の数字は、女性を内数で示しています。

気象庁ホームページはこちら



業務説明会・官庁訪問について

業務説明会及び官庁訪問は、気象庁本庁で行います。業務説明会の日程は、気象庁ホームページに掲載します。

国家公務員採用一般職大卒程度 (技術系)

この試験区分からの採用者は、気象・地震火山等の観測や予報、地域防災支援などの業務に従事するほか、本人のスキルに応じて本庁での業務に携わっていきます。なお、意欲と能力のある職員は、特定分野の管理職に就くこともあります。

採用官署 全国の官署 ※業務説明会及び採用面接を受けた官署の管轄する地域へ採用されるとは限りません。

これまでの採用実績

各年度別採用数	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
物理	78 (17) 名	70 (12) 名	64 (8) 名	63 (11) 名	78 (13) 名
デジタル・電気・電子	2 (0) 名	3 (0) 名	10 (0) 名	4 (1) 名	4 (0) 名
化学	1 (0) 名	5 (2) 名	4 (0) 名	24 (5) 名	15 (3) 名
土木			1 (0) 名	8 (1) 名	4 (2) 名

()の数字は、女性を内数で示しています。

気象庁ホームページはこちら



業務説明会・官庁訪問について

業務説明会及び官庁訪問は、札幌・仙台・東京・大阪・福岡の各管区気象台及び沖縄気象台でそれぞれ行っております。業務説明会の日程は、気象庁ホームページに掲載します。

国家公務員採用一般職大卒程度 (事務系)

この試験区分からの採用者は、主に総務部門に配属となり、総務・人事・経理といった事務系の業務に従事していきます。また、本人の能力や希望に応じて技術的な業務に携わることもあります。

事務系の業務の例

- 総務** 秘書や庁内管理、文書管理、国会対応
- 人事** 職員の任免や服務、表彰、研修、福利厚生
- 経理** 予算要求や決算、財産管理や物品調達
- その他** 広報や法令審査

採用官署 試験の地域区分内にある官署 総務部門

これまでの採用実績

各年度別採用数	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
行政	14 (8) 名	15 (9) 名	23 (7) 名	29 (11) 名	31 (17) 名

()の数字は、女性を内数で示しています。

気象庁ホームページはこちら



業務説明会・官庁訪問について

業務説明会及び官庁訪問は、気象庁本庁、札幌・仙台・大阪・福岡の各管区気象台及び沖縄気象台で、それぞれ試験の地域指定により、採用 (採用予定がない場合があります) を行っておりますので、該当する地域の担当 (関東甲越地域は気象庁本庁が担当します) へお問い合わせください。

高校生の方へ

国家公務員採用一般職高卒程度 (技術系)

この試験区分からの採用者は、まず全国の地方気象台等に配属となり、大卒一般職 (技術) で採用された職員と同じように気象・地震火山等の観測や予報、地域防災支援などの業務に携わっていきます。

これまでの採用実績

各年度	令和4年度	令和5年度
採用数	11 (4) 名	9 (2) 名

()の数字は、女性を内数で示しています。

気象庁ホームページはこちら



業務説明会・官庁訪問について

業務説明会及び官庁訪問は、札幌・仙台・東京・大阪・福岡の各管区気象台及び沖縄気象台でそれぞれ行っております。業務説明会の日程は、気象庁ホームページに掲載します。

大学校へ進学する道もあります

気象大学校学生採用試験

気象大学校
ホームページ
はこちら



この試験区分からの採用者は、気象大学校の学生として千葉県柏市にある気象大学校において気象業務の基盤となる地球科学、基礎学術、一般教養に加えて、防災行政などの知識・技術を学びます。卒業後は、まず地方気象台等の技術部門に配属され、将来の幹部職員候補として気象、地震、火山、海洋等の観測や予報、防災の業務に携わっていきます。

社会人の方へ

気象庁経験者採用試験 (係長級 (技術)) について

気象庁では、全国の気象台における観測予報業務や地震火山業務等の現場を支える即戦力となる人材の確保を目的として、平成29年度から気象や地震火山、情報システム、防災等に関する知識や経験がある方を採用しています。

この試験区分からの採用者は、係長級の職員として本庁や全国の気象官署に配属となり、一般職で採用された職員と同じように気象業務の経験を積みながら専門性を高めていき、各地域における気象業務の諸分野の中心的役割を果たしていきます (一定分野の管理職への登用の道あり)。

これまでの採用実績

各年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
採用数	15 (3) 名	13 (2) 名	17 (2) 名

()の数字は、女性を内数で示しています。

気象庁ホームページ
はこちら



業務説明会・採用面接について

業務説明会及び採用面接は、気象庁本庁で行います。業務説明会の日程は、気象庁ホームページに掲載します。